

〈資料〉

日本女子大学社会福祉学科50年史（一）

—前史—

社会福祉学科50年史編纂委員会

はじめに

日本女子大学社会福祉学科は、本年度で創立以来50年をへたことになる。大正10年（1921年）、社会福祉学科の前身、社会事業学部は、日本でさらに東洋で、大学（当時は専門学校）学部また女子のそれとしては、まさに最初のものとして誕生した。以来、50年の間に、1,700人余の卒業生を世に送ってきた。

その本学科の、いわば原点ともいうべき、基本的姿勢は何であったか、その具体化と成果はどうであったか、さらにその歴史的意義をどうとらえるかということなどを、卒業生の協力をえて、学科研究室が自ら問いなおしてみようというのが、この歴史編纂の意図である。それは、たんなる懐古趣味によるものではない。未来への確かな足取りのための確認をめざしたものである。一方、早急な超歴史的独断に対する、歴史を示しての努力の証しを試みようとするものである。つまり、それぞれの時代のなかでの、学科の創造と屈折また展開を記し、同時にその過程が、教育をうけたものにとってどのような意味があったかを謙虚に学び、学科教育のより一層の進展をはかろうとするものである。そして、できうれば、日本の社会福祉教育史、女子教育史の一端にも、寄与することを願うものである。

なお、本号は、以上の意図の第一歩として、本学創立者成瀬仁蔵の社会福祉教育にかんする姿勢とその直接的な成果を、つまり本学科史にとっては、学科創設のためのいわば前史を、まず資料としてまとめたものである。

点である。

- (1) 集録した資料は、おもに日本女子大学内のそれであり、印刷の関係上、主要なものだけを掲載した。
- (2) 掲載できない資料は、リストにして示した。
- (3) 漢字、カナ使いなどは、できうる限り原文に忠実に掲載した。

集録にあたって、とくに注意した点は、つぎの

1. 日本女子大学創立者 成瀬仁蔵の 社会福祉教育思想

成瀬仁蔵(1858<安政5年>~1919年<大正8年>)は長州に生まれ、1901年<明治34年>に日本女子大学を創立し、初代学長に就任、没するまでその職にあり、今日の日本女子大学の基礎をつくった。その女子教育とりわけ女子の高等教育にかんする先駆的業績および教育思想は、画期的なものであり、今日、教育史、女性史のうえでも注目されている。

ところでその業績および思想のなかでも、とくに注目されている点は、成瀬の社会的姿勢とりわけ社会福祉教育にかんするそれである。その点について(1)もすでに、何人かの評価がなされている。

成瀬の著作、日誌、手紙などあるいは、明治14年に刊行された最初の著作であり、その後の女子教育思想の原型を示した「婦女子の職務」のなかに、その意図はすでに明確な提起がなされている。おそらくそれは、成瀬が青年の頃、沢山保羅との出会いによってキリスト教を信じ、その信仰にもとづいたものであること、また成瀬自身、女子教育を行なうか社会改良家になろうか迷った時期があり、彼が選んだ女子教育も、たんなる教員や教師ではなく社会改良のために行なうとのべている点さらに彼の仕事を支えた人々のなかに、当時の代表的な社会学者、社会改良家、慈善事業家が少なくなかった点などによるものといえよう。もちろん、それらが、歴史的背景とりわけ日本の近代化過程のなかで必ずしも直線的だったわけではない。しかし、形をかえながらも、基調としてはつぬかれ、やがて1921年<大正10年>、本学科の前身社会事業学部創立の源流となっていたのである。

成瀬の著作のなかで、最後にとくに社会福祉学科の構想が具体的に現われているものは、つぎの資料である。

女子総合大学の理想

第二宗教科(文科)

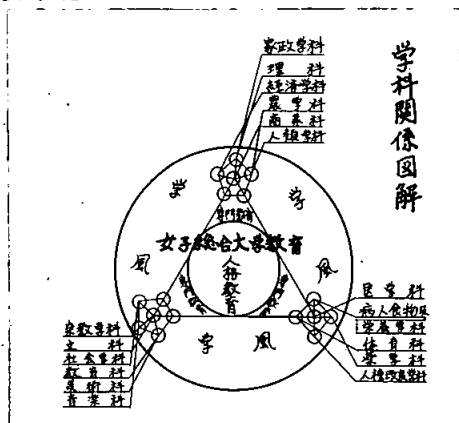
国民性の美質、即ち国民精神生活の後天的美を保存醇化し、精神的荒野を開拓し、物質文明の弊害を矯教し、国民の信念を覚醒し、児童の信念を涵養し、社会救済事業を指導し、婦人団体の組織を指導するに足るべき母親教育家指導者を養成せん為め、宗教科を設け、之れに關聯して、文科、社会学科、教育科、美術科、音楽科の如きものを置く。此の宗教科は、我が国の国情と女子の賦性とに適當せる精神的活動の源泉となるべきものにして、男子大学の文科、哲学科等に対比すべく、勿論学理の蘊奥を講究するも、其の特色としては、生活と發表とを重んじ、情緒情操の涵養に基礎を置きたいのである。宗教哲学の如きも、男子は之れを思想として取扱ふも、女子は之れを生命として自ら生活し、家庭社会に發表する。即ち彼は知識として研究し、此は情緒情操として経験する方面に進展する傾向を有するのである。文学美術音楽に於ても、男子は之れを生活の為めの職業とし、或は享樂の媒とし、動もすれば趣味と品性を墮落せしむる危險に陥り易きも、女子は之れを天職とし、其の情緒情操を美化し、宗教的生活を發揮するを本旨とする。約言すれば男子は学芸を商売化し、己れの享樂に利用せんとする弱点を有するに反し、女子は斯道の為めに犠牲奉仕の根本要求を充たして満足する長所を有して居る。

※第一家政学科(理科)

第三医科

「女子教育改善意見」大正7年所収

女子総合大学の理想



「女子教育改善意見」大正7年所収

成瀬は、以上の構想にもとづく社会学科としてその社会福祉教育の実現をはかったが、自らはその実現をみずに、この世を去った。そして、それは、二代目学長麻生正蔵にうけつがれることになった。

しかし、成瀬の教育思想の特徴のひとつは社会福祉教育を女子教育のたんなる職能教育あるいは専門教育に限定せず、その基盤として、人格教育とりわけ深い信念と創造力また社会的人格を養成すること、ひろい教養をつちかうリベラル・アーツの教育を行なうことにあった。そのあらわれとして、彼は、創立の頃より、自らで実践倫理を担当し、全校の学生に、自らの信念を披瀝した。そのなかでも、とくに大学拡張運動にかんする成瀬の信念、展開は、当時の高等教育の推進者のなかでは、群をぬいたものであった。ことに彼はそのなかで、大学の社会的役割を強調し、その道德的目的のなかに、「社会を高めその欠陥を補わんとする」行為の重要性をのべている。つまり、成瀬は、社会改良活動にかんする教育をたんに専門職能教育としてのみ考えていたのではなく、人間として当然の行為であると考え、人格教育の一端としてとらえていたのである。この姿勢およびそれにもとづく成瀬の指導は、のちにのべるように、とくに社会福祉にかんする専門学科が出来る以前においても、すでに卒業生の進路に影響をあたえさらに桜楓会活動、とりわけ桜楓会託児所のそれへと結晶していった。

大学拡張

成瀬仁蔵談

第2章 大学拡張の方法及び其の機関組織

大学拡張の要素

(略)

2. 道德的目的 のために会合す、是れ社会を高め其の欠陥を補はんとするものにして。貧者を扶け、窮民を救ひ、凡て低き階級に属する人々を助けて、之れに道德的生命を与へ、

其の品性を革新し、向上の精神を鼓舞し、以て現代に於ける社会の疾患を癒し、将来の国民を健全ならしむるにあり、此の目的を達せんと欲せば、精神的生命によりて希望と勇氣と熱心を得ざるべからず、更らに其の動機となるべき犠牲の心、即ち同胞の為に困苦を忍び、国家の為に奮闘するの精神なかるべからず。意志の力の克己抑制によりて養はるゝが如く、愛の力犠牲の心は我欲を捨て、私情に克ちて、人のために尽し、全体の為に自己の不便を厭はず、高尚なる目的の為に艱難を甘んずべき精神的生命によりて修練せざるべからざるなり

『家庭週報』明治37年6月24日 第154号

当時の実践倫理の講話を集録したもの

- (1) 社会事業研究所編「社会福祉研究」1号所収
吉田久一「日本社会事業教育の系統」
「明治学院論叢」36号所収
三吉明「社会事業家に関する諸問題」
日本女子大学「社会福祉」
一番ヶ瀬康子「成瀬仁蔵の社会事業教育観」

2. 成瀬仁蔵をたすけた人々

いうまでもなく、先駆的業績は、一人の努力だけによるものではない。成瀬の思想を理解し共鳴して、創立当時よりその教育をたすけ、やがて開花する社会事業学部創立の土壌をつくっていった人々がいる。また、全学的に社会的姿勢がみなぎり、各種の活動が活発化するのを、影ながら援助した人々もいた。その主要な人々およびその資料をつぎに紹介しておこう。

・麻生正蔵(二代目学長、社会事業学部の創設者)
元治元年(1864年)1月9日豊後国玖珠郡東飯田村見留に生まれる。

17才の折京都同志社に入学、新島襄に師事する。明治22年同志社卒業と同時に上京、東京帝国大学哲学科の選科生となる。この頃、松村介石と共に北越学館に教師として赴任する。成瀬仁蔵との交遊はこの時から始まる。その後同志社に帰るが、明治27年(1894年)成瀬帰朝後女子大学設立について協力を求められ、共に「女子教育」の執筆に従事し、設立準備運動を共にする。

明治34年開校と同時に学監となり、翌35年欧米

視察旅行、帰朝後、倫理学、心理学、教育学等を講ず。大正8年(1919年)成瀬校長逝去後二代校長の重職に就任された。

昭和6年3月本校創立満30年を機に引退されるまで、女子大学校充実の為に尽された。

昭和3年10月、女子教育振興の為に功労者として勲5等に叙せられ、瑞宝章を賜った。

昭和24年(1949年)11月28日永眠される。

麻生正蔵が、成瀬の偉業の継承として、とくに力をそそいだのは、女子総合大学の実現への努力に先立って、社会事業学部の創設であった。おそらくそれは、麻生のキリスト者としての信仰とりわけ、同志社出身の人々がそうであるように、新島襄の強い影響にあったように思う。その点については、次号でさらに指摘したいと思うが、本号掲載の桜楓会託児所設立にあたっては、それに先だってモンテッソリーの幼児教育論を講義したことなどが、とくに注目される。

・浮田和民(本学創立の時から教授、全学開講科目であった応用社会学の担当者)

安政6年(1859)12月28日肥後国熊本竹部久本寺東横町に生まれる。明治4年13才熊本洋学校に入学、米国式教育を受く。明治9年同志社入学哲学科にぶ、同12年卒業。明治19年~30年同志社の教員として、西洋史、文明史を教える。明治25年~27年(1892~94)米国エール大学留学、主としてラッド博士の薫陶を受く。明治30年5月39才にて東京専門学校(早稲田大学の前身)教員となり、以後、昭和16年5月(83才)にて退職されるまで、早稲田大学の教授として、同大図書館長、同大学高等師範部長、又、同大学社員又は維持員として大学経営にも参画した。明治41年3月9日(50才)法学博士の学位を受く。同42年2月より大正8年6月学校教育の傍ら博文館発行月刊雑誌「太陽」の主幹となり社会教育に従事す。

大正9年世界状況視察のため欧米その他巡行、翌10年3月5日帰朝。昭和16年早大退職と同時に同大名譽教授に推挙される。

昭和21年10月28日(88才)豊島区高田本町の自

邸にて逝去。

日本女子大学では、応用社会学の他は西洋史を講義された。女子大学での応用社会学の講義内容は、明治41年以来の通信講義録に掲載されたものと、ほぼ同様と思われる。そのなかの、とくに社会改良のなかで、浮田は、熱心に欧・米の社会改良活動を紹介している。桜楓会活動に対しても、成瀬をたすけ、その教育を展開している。

著 書

西洋古代史	早大出版部
比較行政法(グッドノウ原著)	早大出版部
帝国主義と教育	東京民友社
社会学講義	帝国教育会
理論的帝国主義	隆文館
政治原論	早大出版部
生活戦術	実業之日本社
新国民の修養	群書堂
文明の世	博文館
社会と人世	北文館
理想と現実	日月社
軍国主義政治学(トライチュケ原著)	早大出版部
世界改造の目的と方法	文明協会
勝利への路	実業之日本社
日米非戦論	"
日米愚戦論	"
人間の運命	文明協会
産業自治論(コール原著)	"
ボルシェヴィズムとアメリカニズム	文明協会
思想善導の唯一手段は何か	"
満州国独立と国際聯盟	早大出版部
満州問題と日米親善論	北文館

(資料)

浮田和民先生追懷録

・ミス・フィリップス(本学創立直後からの教授、寮監)

・1872年生まれ、ケンブリッジ大学、ニュナムカレッジ出身の秀才で早くから科学界において輝かし

い前途を囑事されていた。先生が発見されたリーフ島の動物に関する論文は、英国ロイヤル・ソサイエティーから出版された。

・1901年来日

・1902年 日本女子大学英文学科教授として4月から講義を始められ、1941年第二次世界大戦の為英国へ帰られた。

その間40年余り、本校教授としていつもはつつとした講義（英文学史、英国史、会話）をなさり、学生は、先生の熱心かつ献身的な愛をもった教育に感銘をうけた。

講義の外に暁星寮の寮監として学生の実生活の指導をなさった。規則的な生活の習慣、質素儉約奉仕の精神など、実生活を通して学生を導びかれた。ことに宗教教育に熱意を燃やされ、寮においても Bible Class を作られ学生を指導された。又、家庭週報47号に掲載された。「英国女子大学生の貧民救済事業」に書かれたとおり、社会事業についても深い関心を示された。

先生が本校で教えられた記念に、1953年フィリップス賞を設けられた。

先生は、1965年5月12日、93才で亡くなられた。

ミス フィリップスの影響は、当時、活発であった英国における女子大学拡張運動の紹介をした以上に、その純粋な信仰を基礎においた人生への態度、社会的な姿勢であったように思われる。社会事業学部の創設前は、社会福祉の先駆者として活躍した卒業生の多くに、英文学科の出身者が多かったという事実のひとつの理由に、ミス フィリップスの影響があったと推察される。

・高島平三郎（本学創立5年後、教授として着任）

慶応元年（1865年）10月1日江戸本郷駒込阿部候邸内に生まれる。明治6年（9才）福山西町上小学校に入学、明治10年同小学校全科を卒業す。翌14才にて同小学校授業生の職に就くが、これが教育に入る第一歩となる。明治20年学習院備教師、23年本院助教授、明治29年（32才）学習院辞職される。その後長野県師範学校備教師、明治36年

（39才）4月より日本女子大学教授を囑託、大正4年（51才）4月退職される。東洋大学、立正大学、日本体育学校等々多くの学校に関係される。

わが国児童心理の開拓者ともいわれている。他の多くの学者、教育者と違い、学歴もなく、真の独学自修にて、開拓され、著書も数多く世に出された人である。

昭和21年 永眠される。

資料 高島 先生 教育報国60年（昭和15年11月発行）

本学在任中は、とくに児童心理学の講義を通じ、学生に大きな影響をあたえた。明治40年代には、社会事業教育として、官制ではあるが、わが国の濫觴である感化救済事業講習会の講師として、児童保護事業の教育に活躍している。おそらく、その経験などを通じ、桜楓会託児所設置などにも影響があったと思われる。

なお、平塚らいてうは、とくに尊敬していたらしく、前記資料、教育報告60年にも思い出を執筆しているが、近刊の自伝「元始、女性は太陽であった」（大月書店、1971年）のなかにも、そのことをのべている。

・留岡幸助（講演・談話などで桜楓会活動へ貢献）

1864年岡山県高梁町に生まれる。1881年上代知新より受洗、1885年同志社神学校に入学す。1888年同校卒業後牧師となり、丹波一円の伝道に従事。1891年北海道空知集治監に教誨師として赴任。1894年職を辞し、監獄研究などを志し渡米、帰国後警察監獄学校教授に就任す。1899年に家庭学校を設立。少年感化を中心に多面的な活動を行なった。彼の主筆になる「人道」の発刊（1905）と二宮尊徳の報徳主義への傾倒などが彼の遍歴に深く刻みこまれる。宗教と学術による慈善事業の必要をといた。資本と労働の調和、教育的慈善、慈善事業方法の改革などをとる。

家庭学校の付設施設として慈善事業師範部を設け、教護職員の養成にあたる。

1928年感化事業功労者として褒賞を受ける。

1934年 永眠される。

著 書

- 慈善問題 (1896年)
獄制沿革史 (1900年)
ジョン・ハワード研究収録 (1900年)
戦時の慈善事業 (1904年)
社会と人権 (1910年)
明暗創記 (1910年)
現在基督教の不振 (1910年)
わが奉教の由来 (1931年)

とくに、留岡は、成瀬、麻生両学長と親交があつく、桜楓会でもしばしば講演されており、その影響は強かったと思われる。講演の代表的なものとしては、つぎのものがある。

公益事業と社会の発展

家庭学校校長 留岡幸助君談

慈善事業や社会事業の発展には同情が其の根本となって居る、而して御婦人方は最もこの同情心に富んで居られるが、従来は実業家や其の他男子の方から多く話を頼まれた併し今度は諸子方からこの要求を受た事は誠に満足に思ふ次第である。此等の事業に就ては順序を立て統計を以て御話することも大切であるが、さうすると余り学究的となり興味が少ないから今日は左様な事をぬきにして御話する事にします。

△慈善事業社会事業の動機△

先づこの様な仕事は如何動機に依って起るか云ふに凡そ幸福なる生活は不幸が其の動機となって居るやうに思ふ。不幸そのものがよいとは云はないが不幸から幸福が生れると云う事が慈善事業発達の歴史をなして居る。丁度無学の人が是れではならぬと云って一心に勉強をして学者になるやうに、又始めは円木橋であった所の橋が幾度も洪水の為に建て更へられ遂に立派な鉄橋となるやうなものである。夫れで現今社会に救済事業の必要になった訳は何かと云ふに第一人間は個人的の者で自分或は自分の家族以外に考へる及ばぬものである。まづ自分に不自由を感じなくなってから他人に同情を起す様になる。第二に二十世紀に於て生存競争が激しくなり生活に迫られて家族以外に考へる及ばぬやうになって勢いこの事業が必要になって来たのである。故に我政府に於ても盛んに奨励せられ、民間に於ても漸次行はれるやうになったのである。斯様な事業は他人の事ばかりを考へる様であるがいつかは其影響が自分に戻って来る、故にこの事業は社会と個人間の安全弁となるので一国家を支持する上に必要欠くべからざるものである。然るに人間には道徳的生活を追求する

傾向がある、道徳の進歩は実社会の活動に俟って始めて成るのであって単に修身の教室からばかり出来るのではない、婦人が母とならぬ前に子供を教育することを云っても真個ではない様に眞の徳育の発達も実際の事柄に當って見て始めて出来るのである。

明治天皇崩御被遊て大赦特赦減刑の恩典に浴して無数の罪人が出獄する、故に此等の人を保護せんとする免囚保護会なども出来て居る、其の他救世軍などに於てもこの為に働いて居るので、これ等は監獄改良の一部であって文明諸国に斯ういふものがない所はない。而して又巢鴨の監獄の如きは実に驚くばかり整備して居る、教育をして居る室に行けば学校の様に見え、又日曜日に説教する所を見れば寺院にいった様であり、仕事をして居るのを見れば工場の如き感じがする。斯くて出獄の際には日頃働いてとった幾何かの貯蓄金を資本にするやうにと云って渡すので、実に其行届いて居る事は到底昔と比較する事が出来ない程である。この様に監獄が改良された基は何かと云ふに今から二百年以前英国のジョン・ハワードと云ふ人が居て、この人は金持の上に宗教家であつたが嘗てリスボンへ救済の目的を以て出掛けた時に、普仏戦争が起りハ氏は仏艦に虜になって仏国の港ブレストに上陸して監獄に投ぜられるやうになった。獄中には糞を敷いてあり、食事も充分でない、三四日振りに豚の足の生のを投げ入れられる位が御馳走なのである、彼は斯る辛酸を嘗めて漸く出獄する事になり、こゝに大に監獄改良の必要を絶叫し、欧州諸国の公貴人に訴へ其の賛同を得たのである、今日次第に監獄が改良されたと云ふのも二世紀前にジョン・ハワードがこの様な不幸に逢った賜である、即ち不幸が幸福を生んだ好適例であると、思ふ故に慈善事業社会事業は人間の不幸を変じて幸福となすものである、世の中には不幸の事が多く又不完全な人間の寄合である以上はどうしてもこの様な事業は必要となる、眞の文明と云ふものは人類の不幸を変じて幸福とするのである。(つづく)

△慈善事業の要点△

然るに慈善事業は往々にして誤られるのである、過ぐる頃東京の或有名な金満家が私の所へ来られて一日その仕事を見て『お前は馬鹿だこれ丈の手数をかけて無駄な事をするより幼稚園の方でもやった方がよい、そんな消極的な事はしない方がよいだろう』と云はれた事があるが、一体この事業には消極と積極とありまして消極と云ふのは貧窮の人に衣食を与へ病弱者には薬を与へたりする方で、積極は幼稚園や夜学校、簡易実業学校、孤児院、職業紹介所等を施設経営することであるが消極積極共に大切なものである。

其の理由は慈善は人間の道徳であるから仮令直接に生産はしなくともなさねばならぬのである。昔は慈善が消極的の方面ばかりに行はれて居たが近頃は七八分通り積極的となつて来たのである。更に一步を進めて現今世界及び日本で慈善事業が如何なる方面に行はれて居るか云ふに先づ貧民救助

これ迄は衣食住に因る者を救助するに止まって居ったか慈善事業が漸々研究されて来るに従つて、そればかりではならぬと云ふ事になり、即ち萬止むを得ぬ者には衣食を給する、病気で困難するものには更に薬を与へるのであるが之等の数は比較的少ないのである。そして身体が丈夫で仕事が無くて困る者がある、これには仕事を与へる即ち職業を紹介するのである、茲に至るともはや慈善事業と云はんよりは社会事業と云ふ方がよからう。で仮りに一日の家計に五拾銭を要するの三十銭しか働けない、そんなら残り二十銭を補給すると云ふ風に助ける。又五十銭を要しそれ丈働き得る能力を有して居るものには只其職業を紹介してやりさへすればよいのである。次に貧民の子供を如何するか——俗に貧乏人の子沢山と云ふ如く兎角貧乏な人には子供が多い。斯くの如く貧乏にして子供の数が多ければ従つて教育も充分に与へる事が出来ぬ教育が行き届かないから従つて不良少年少女が殖えて来て泥棒することなど余り悪い事と考へず、遂にはこれを副業の如くするやうになる。この様な悪童を放棄して置けば又第二の貧民を増殖する訳になる。茲に於て簡易な実業学校或は夜学校を設ける必要が起つて来る。欧米に於て殊に米國に於ては、ボーイス・クラブが盛んに行はれ、又幼児保育事業も盛んである。斯事業は昼の中だけ貧児を預り其の間に母親は仕事をするやうになって居る。貧人には守りが行届かないから怪我をして片輪になる者が多い、故に尚更ら保育の必要がある。又貧民社会では悪い事を教へる、現に感化院などに居る子供の中には盗みやカッパハヒをする事を善いと思つて居るものが沢山ある、これは平常母親から仕込まれたものであらう。故に将来の貧民となる子供を如何するかと云ふ事は大切な問題である。次には子守の教育であるが西洋ではこのやうのようなものはない、何故なら西洋には家庭教師と云ふものがあつて子守りをしたり、且つ教育もするから、子守学校の必要はない。然るに日本では子守と云へば殆んど貧民の子であるからどうしても子守学校の必要が生じて来る。次に貧児には死亡率が多いこれは母親の産前産後に於ける養生が悪いからである。目の悪いもの盲目になるもの又營養不良の者が特に多い。西洋では貧児の食物を如何にするかと云ふ事が研究されて牛乳を廉くして吞ませるやうな事が慈善事業として行はれて居る。日本では未だ一つも出来て居らない。

△慈善事業の方法△

以上を以て見ると貧民に対する救済法は幾つも科を分けて研究し着手する必要がある、昔は貧民に着物を与へ、食物を給すればよかったのであるが今日は種々の方法を以て救はねばならなくなったのである。従来慈善事業には悪い癖があつて貧民に対し單に可哀想だから与へると云ふ風があつた為に丈夫な者でも怠惰者に依頼心を起させるやうであつた。彼の中世紀におけるモナステリー（修道院）の修道者は貧乏であるが働いて御金を蓄めこれを人に施すのである。これは單に施しと云ふ形をとつて与へるので貰ふ方のことは少しも考

へぬから却て害があつた。故に慈善事業に於ては如何なる形を以て行ふかと云ふ事が注意すべき問題なのである。英國の如きは政府から貧民救助金が一億六千萬圓も支出されて居る、而して英國には特別貧民が多いのである、この理由は余り貧民に与へる所が多いからであると云ふのものがあつたが一理ある事と思ふ。斯くの如く貧民が權利で救助を要求する様になると人間の獨立心を失はしてしまふ。故に慈善事業をするには大に研究を要するのである。世に宗教家なるものが多いが如何して人格あり感化力ある人が少ないかと云ふに、自分で働いて金をとるではなく、信者からの寄附や御布施で生活して居るから自らの品性にも自然と影響して来るのであらう。故に物を貰ふことを好む人は性格が宜しくない様である、出世をする人は多く与へる人である、夫れであるから所謂慈善の形でなくして人を救ふと云ふことが慈善事業の秘訣である。

（つゞく）

近頃コロニー・システムと云つて荒地を沢山買ひ込み此所に貧民を住まはせると云ふ風のものがあり、米國ではホームステッドと云つて貧民に百姓をさせ働いて食はせる方法が立て居る。ロンドン辺では失業して困る者を農村へ送り帰へす。この為にスモール、ホール、デング、アクトなる法律が發布された。この法律は「小農保護制度」とでも訳せばよからう。土地を以て貸しき農民を救済するのである。これ等は皆社会改良の上から行ふ事であつて畢竟人間はたゞで人から貰ふ事はいけない自分の力で食はんければならぬと云ふ趣意であつて根柢は矢張慈善である。又貧乏で病める者に対しては施薬治療を行ふので近きは明治天皇の御下賜金に成る済生会二千五百万圓の財團の如きは則ちこの意味のものである。其他施薬券を渡しこれを以て医薬の資にかへしめると云ふものもある。この様な救助を一方に於て講ずると同時に善良なる看護婦の必要がある。であるから看護婦学校の設立と云ふ事が起つて来るがこれ亦大問題である。我が日本に於ては医学や医術は長足の進歩を遂げたけれども、これに並行する良看護婦は至つて少ないのである、英米兩國其他他逸や仏蘭西に於ては非常に大なる看護婦学校を宗教的に仕組みて設立して居る、此所に於て養成する看護婦は看護、伝道、慈善の三方面を兼ね備へて居る。又西洋では金持や政治家や軍人などの未亡人が慈善事業に従事するものが多いから病院や慈善院に參つても余程行届いて居る、然るに日本では一二人なる看護婦養成所があるけれども良看護婦が多く出ない。のみならず多く看護婦になるものは貧人で而かも信仰がない医学や医術と伴つて病人を直すには不満足を感じるのである。

其の他社会には甚だ同情すべき不具者がある又癲病患者の如き、これに対しては癲病院が必要である、我が國は世界中最も癲病患者が多い、それで政府からも其他熊本や甲府、静岡県御殿場、東京目黒などにも私立の癲病院が出来てゐる、次に我が國にはなかなか狂者が多い、然るに狂者の多い程病院が少ない。我國には精神病患者が二万有余人もあるので、こ

の病氣は文明と密接な関係を持って居る即ち生存競争が激しくなるに従って増加するのであるこれに附添ふ看護婦の如きは女中上り或は日傭上りのものでは病氣が直らぬのみならず却って悪くする恐がある、これも将来如何すべきかは大なる問題である。次に不良少年少女が多い、この為には感化院が必要である。不良少年少女は我国に五萬二千位居って五十二の感化院には千百名許り居る。其の他不良少年少女は放任してあるのである。私の考へでは五萬二千どころでなく十萬人も居るだらうと思ふのである。

此等多くの不良少年少女が犯罪人とならぬ前に教養保護を加へる必要がある。次に盲啞であるがこれも随分多い、この原因を調べて見ると種々あるが、多くは生れた時に取上げる始末の悪い所から来ると云ふことである。それから低能児や白痴を如何に取り扱ふか我国に於ける白痴院は滝の川に僅に一つあるのみである。尚監獄に往って見ると罪囚が七萬何千人とあるが過般大赦減刑の結果続々出獄するものがある、此等を如何に取扱ふべきか、刻下の急務である。又不節操の爲墮落をする婦人がなかなか我国には多いのである。彼の浅草の十二階の下に行くと若き女が沢山居る。西洋に於てはこれ等の墮落婦人の爲に夜間伝道をして居る、彼のナイトミッションの如きは則ち之である。又米国ニウヨークのクリテントンと云ふ人は自分の愛娘フロレンスを失ってから非常に若い婦人に同情をよせるやうになった。

クリテントンは自己の資財を挙げて之が救済に力を致し、『フレスミッション』なる救済館を起して居る。このミッションはアメリカ到る所の都会に立てられ我日本にもあるので現に府下大久保の慈愛館は其れである。ク氏は一の列車を持ってこれを自分の家の様にして鉄道会社の汽車に連結いでもらって米国中に於けるミッションを巡回しこれ等の憐むべき婦人を救済して居る、我が国に於ては誠に遺憾なことであるがこの墮落婦人の数が非常に多い、シベリア、南洋、満州、支那、欧羅巴其の他の國々に行き渡って居るのである。故にこれ等の婦人を出さぬ様にする事も亦大問題である。次に慈善事業に於てチャリテールオルガニゼーション、ソサイテ（中央慈善協会）と云ふものが尤も盛んに行はれて居る。之は慈善事業の普及徹底には大関係を有するのである。救済事業に大切なことは貧民が儲けた金を貯蓄させることである兎角貧民は御金が儲かれば儲かる丈飲食して了ふからこれをさせない様にとったお金は貯蓄する様にしてやる貯蓄は一つの道徳である。然るに貧民には著しくこの徳義が欠乏して居る、故にこの心を吹き込むのが大切である。一銭或は二銭の端金でもこれを預かってやるやうにせねばならぬ。又西洋には貧民の処へ婦人の訪問者を派遣して其貯蓄を取立て、保管し利倍増殖の道を図って居る。（続）

又貧民救助の金融機関として一つは低利の資金を貸し二には貧民の質屋を設ける事も更に大切である。下谷に百十二の貧民質屋が有ってこゝへは鍋、釜、下駄、子供の着物などと云

ふ嵩低なものを預け入れ僅かのお金を借りるので、例へば朝に釜を五十銭に入れて其を資本として商売をして夕方には壱円として二銭の利子を附けて質屋に返し、其余りで一日の生計をたてるのがある。それで貧民窟の近くには大抵質屋が多くあると同時に高利貸が居て高い利をとりたてゝ貧民を苦しめるから慈善家はこゝに目をつけて低利の資本を巧妙に運用せねばならぬ。又貧民を救ふ根本とも云ふべきものは其の家庭を改良する事である、貧民は一番家賃に困るのであるからこれを廉くしてやる方法を考へ出すのが大切である、試みに彼等一ヶ月の収入を調べて見ると、上が十八円 中が十三四円、下が五六円である。然るにその全収入の二割乃至其以上を家賃に支払ふのであるから、その狭ま苦しい家に三夫婦も住む、それ等には各々子供が沢山居る、これでは衛生も道徳もあつたものではない、であるから貧民の改良は先づ物質の方面からせねばならぬ。彼等に衛生の大切なことを教ふると同時に衛生を守ることの出来をやうな仕組をしてやらねばならぬ。其れには住宅を改造することが急務である。西洋では家を貸すに守り易い三箇の条件を付して居る第一勉強する事。第二清潔にする事。第三喧嘩口論をせぬ事。この三箇条を守るものに家賃を安くして貸してやるのである。又細民の中間に這入ると着物の縫製をしらぬ婦人が多い。斯様な者には簡易な裁縫を教へてやらねばならぬ。さうせないと未だ着る事の出来るやうなシャツや着物までを棄てるのである。又貧民には善い活動写真や之れに類する社会教育をせねばならぬ通俗教育殊に下層社会の教育は七分を清健なる娯楽に仕組み三分を以て教授や教訓で導かねばならぬとても言ひ聞かした位では貧民を救ふ事は出来ない。この様な事を話せば限りない程あるが兎に角積極消極の兩方法を以て社会を改良する事が大切である斯うすれば貧民も救はれ従って一般社会をも救済することが出来る。

今日の如くに小さな商工業者は大きな商工業に倒され、地方へ行って見ると地主と小作人との間柄がよくいって居らぬ。都会には資本家と労働者との問題があるそして弱い者が強いものに倒され所謂落伍者となる、是於てか社会問題が起つて来る。大都会に家の数が殖えるのは貧民の殖える徴候である。東京では昔は下谷区万年町、芝区新網、四ッ谷区鮫ヶ橋に三大貧民窟があつた、今日は浅草、本所深川、日暮里にも大きな貧民窟が出来たかく社会の新運に伴ふて貧民の数が益々多く殖えて来る。この殖えて来るにつきては政府は固より民間の富豪、宗教家及志士仁人は大に力を尽して其救済を試みなければならぬ。

私は皆さんに悉く慈善家になる事を御奨めしない、家を治められた傍ら余力があれば是等の事業に力を用ゐて貰ひたいのである。忠君愛国と云つても唯口に丈け叫んで居ては国家の爲にならぬ。国家の事に関係し實際社会の事に同情をしてこそ初て其目的を達することが出来る。上流社会が如何に健全であつても下流社会が腐敗して居ては健全な社会を造ること

は出来ぬ。邦家を健全に進ませやうとするには只海陸軍や教育ばかりに力を尽しても進むものではない。従来社会に於て種々の問題が紛起して居る、之を能く治めて行くには両方のことを考へねばならぬ。仮令ば地主と小作人の問題、資本家と労働者との問題の如きは一方の爲のみを図ってはいかぬ。夫故に現今社会問題解決の要訣は「ミューチュアリティー」といふことである。相互の爲になるやうに仕組むと云ふことが大切である。

人間は自我心の強い者で、我ありて人のあることを知らない。又今日の如く生存競争が強くは落伍者が沢山出来る。この秋に当りて貧弱者を構わないと云ふのでは、如何に国を盛んならしめやうとしても、国は盛んになるものではない。

皆様はどうか貧弱者の爲めに御同情被下やうに願ひます。

(終り)

『家庭週報』大正元年11月1日第200号、

大正元年11月15日第201号、大正元年11

月29日第202号、大正元年12月13日203号

・高田慎吾(講演などを通じての桜楓会活動援助者)

明治13年5月1日(1880年)熊本県八代町に生まれる。少年期に家運の衰退に遭遇、外柔内剛が彼の性格の一つとなった。32年青山学院中等部卒業熊本第五高等学校卒業、東京帝国大学ドイツ法科に進む。41年3月大学卒業後42年1月東京市養育院に奉職した。45年2月渡米社会事業視察、大正3年(1914年)内務省嘱託。大正7年石井記念受染国社会事業職員養成所の主任として赴任した。大正8年2月大原社会事業研究所開設と同時に幹事に就任、後研究所が大原社会問題研究所と合併、社会事業部門の責任者となる。多くの論文を発表、「社会事業年鑑」を編纂した。12年夫人同伴でヨーロッパに外遊、帰調後、救貧法の改正に関心を示した。この時期における社会事業の指導者であったが、昭和2年7月5日48才にて永眠される。著書として未発表原稿を集め、「児童問題研究」を昭和3年に発刊する。

高田の本学への影響は、つぎの講演などを通じてであるが、後に、本学卒業生が夫人になり、夫人が図書館に勤務されていたことなどから、その他個人的にも援助あるいは協力がなされていたということである。

婦人と救済事業(一)(二)(三)

法学士 高田 慎 吾

西洋諸国と日本とを比較して何れが救済事業が盛んであるかと云ふ問を起す人があるが、今日は西洋の方が遙に事業も盛んであり方法に於ても非常に進歩して居ると思ふ。併し一方から云ふと、救済事業は社会の欠陥を補ふ仕事であるから、事業が盛んであると云ふ事は畢竟は社会が理想に達して居らぬ反照で、社会をして救済事業ならしむることは即ち国家の理想である。故にかゝる点から云ふと日本は最も幸福な目出度い国と云ふ結論になる訳であるが、果して日本の社会がそれ程進歩して居るか、救済を要せぬまでに完全であるかと云ふと決してさうではない。

或は又日本が西洋の如く救済事業の煩ひを要せぬのは家族制度にある、親族互に相扶け進んでは隣保相扶助し合ふ風があるから一個人の上に不幸があつても近い人から助けられて、特に他から救済を求めずとも済んで居るといふ人もあるが、これも一面の真理は含んで居る。併しそれはまづ過去の事である、将来も尚此の状態が続くかといへば、今日の日本の変遷を見ると、経済上の関係その他種々社会上の影響を受けて、従来の如き家族制度は漸次壊れかけて居る。例へば私などは次男に生れて居るが、以前ならば次男でも故郷で家産を幾分分けて貰つて同じくその土地に一家をなして行く事が出来たが、近來は教育でも受けて何か事をしようとするとその町では生活が出来ぬから、他へ出て適當な仕事をとつて生活せねばならぬと云ふやうになって居る家毎に斯かる有様であるから、従来の家族制度と云ふものは次第に壊れて来て、互に助け合ふと云つても今までとは大に趣きを異にして居るのである。さればかかる事を以て日本の救済事業を樂觀する事は出来ない。要するに今日日本は決して救済事業を要せぬ程目出度い国柄ではない、寧ろ救済せねばならぬ種々の問題が目前に横はつて居るのを為さずに居る状態である。今その問題の二三を挙げて見ると

□嬰兒の保護法

日本と西洋との統計を比較すると一歳以下の嬰兒死亡率は、日本の方が其の数少く成績がよいが、二歳三歳になると段々西洋の方の死亡率が減じて来て日本の成績が悪くなってくる。其の原因を調べて見ると日本では生れ落つると満一歳位までは、至る所母親の乳を飲ませる習慣があるが、西洋では大抵ミルクで育てると云ふ関係からかかる結果になるのである。所が近來欧米では嬰兒の保護運動が非常に盛んになって来て、第一嬰兒に母乳を飲ませる事を母親にすすめ、その他嬰兒の衛生に就ての知識を授ける種々の事業が公私共に盛んに起つて来て、其の結果年々嬰兒の死亡率が減じて行くこと云ふ状態になって居る。私は米国の児童に関する社会事業を一通り見て是れ程注意が届いて居るならば二三十年後には両国国民の

間に如何なる差異が生ずるに至るであらふかといふ事を深く感じて来た。

嬰兒保護の事は救済事業の内でも殊に根本問題である、嬰兒時代に於て健康なるものでなければ成長して後其の一身一家に不幸が絶ゆる事がない。故に健全な赤児を産む事は根本問題であると同時に、一国の消長に関する大切な問題である我國に於てはかゝる問題に對しての運動事業と云ふものは実に徹々たるものである。

□貧孤児の教養法

貧孤児問題の如きも欧米の如く進歩して居ない(岡山孤児院などは先づ進んで居る方であるが)米国の孤児院を見て後我國のを見ると第一衛生上に対する注意などが余程劣って居るやうに思ふ。米国では貧困児の保護方法も単に院内に收容するばかりでなく、母親に対する年金法といふものが十数ヶ州に法律となつて設けられてあつて(州によつて方法は違ふが公費で貧孤児を母親の膝許で養はしむる方法である。例へば寡婦となつた貧しき婦人が三四人も子供があると云ふやうな場合、従来ならば孤児院で養つたが、其の孤児院に要する費用を母に給与し実母をして育てさせるのである。(つゞく)

□感化事業

不良少年の如き問題でも、今日日本の感化院の如きはまだ創業の時代であるから收容数から云つても極僅のもので沢山の不良少年少女を教養する設備は出来て居ない、其の規模から云つても教育の方法から云つても、西洋の形を移して試みて居るに過ぎぬのであるが、将来我國の感化事業を如何にすべきかは吾々の最も重大な研究問題である。

□心身の不具者に対する教育

低能児、白痴者に対する教養所の如きも僅に日本には数ヶ所あるのみで、東京の如きも滝の川学園一ヶ所に止り、高等師範の中には一つ教室が設けられてあるが、まだまだ之等精神的な不具者を教養する場所は充分でない。

又不具者教育も盲啞に就ては大分行はれて居るが、手足不自由なる子供の如きを教育する特別の機関はない、紐育では小学校に大なる馬車があつて、足の悪い子供があればその家を戸毎に廻つて馬車を以て学校の送り迎へをして適当な教育を授ける、又児童保護協会などと云ふ特別な協会があつて不具者の為特別な学校を建て馬車で往復させ手芸等を授けて将来自活し得るやうに導いてやる、之等も我國に於て為すべき仕事の一つではあるまいか。

□大人の救済問題

大人の事に就ても乞食、浮浪人の問題の如きは日本では何等の解決もしてない、例へば彼等を取締る法律さへも充分のものが出来て居ない、只警察犯処罰令に一二ヶ条の規定がある位で、之さへ「乞食、浮浪人に対して、三十日未満の拘留に処す」位の法律に止つて居る、然も拘留したとて何の効力もないのである。嘗て東京府にて強制労働所を設立しようといふ案が出たが未だ通過せぬといふ状態である、然るに欧羅巴

では浮浪人乞食に対する法律又は收容する機関がよく備つて居つて略其の解決をつけて居るのである。

□癩病患者の救養法

又日本に於て最も困つて居る問題は、癩病患者に対する所分法である、印度は世界中でも非常に癩患者の多い国であるが日本は其の印度に次ぐ程の多数を占めて居る、幸に府県連合のもとに、癩療養所が数ヶ所設けられてはあるが、これも扶養義務者なき者、又は浮浪人のみを收容する処であつて、それらの人々さへ到底需要に應ずるだけの設備になつては居ない。精密な調べと云ふ事は出来ないが我が国の癩患者数は二萬人位に及んで居る、而して此の内公私の癩療養所に收容されて居るものが僅に二千人ばかりである之を以て見ても現在の儘では此の多数の患者に対する撲滅の方法は決して満足とは云はれない、而も二萬と云ふ患者は形の上に表れた所の人のみを計算した数で其の他疑ひあるものを数へて来たならば或は十萬に達しはせぬかと云ふ程の多数を占めて居る。されば斯かる救済事業も吾々が講究すべき目下の急務である。

□予防事業

以上述べて來つた事は救済されねばならぬ人の救済事業であるが、是に伴つて又予防事業と云ふ事も成さねばならぬ仕事沢山ある、例へば職業紹介所の問題の如き、東京大阪では社会事業として数ヶ所起つて居るが、未だ求職者に対して充分の設備とは云はれない、まだまだ其の数も増し、事業も組織的にせねばならぬと思ふ。或は又子供の労働問題である、此の頃東京の市立の職業紹介所に職業を求めてくるものゝ内には未成年者が大分に多いと云ふ事である。実業界が大規模組織となり昔の年功奉公の制度は段々破れて行き、又経済界が非常に複雑に栄枯盛衰の劇しい世の中となつた今日、是れ等小学を終るか終らぬかの多数の子供を如何に導くか、将来自立自營し得るやうに如何に育てゝ行くかと云ふ事は非常な問題である。一方から云ふと実業が非常に盛んになれば繊弱い少年少女を使役する工業家も段々多くなるに違ひない、日本で工業法が出来たが、其の法律の保護する児童は満十二歳以上にして十五人以上を使用する工場に働く者に限るゝから労働に従事する全体の少年少女を保護するには足りないと思ふ。

又婦人の労働に就て考へて見ても非常に注意せねばならぬ問題沢山ある、私は先日或製糸工場を見たが、此所の工場主は或る宗教の信者で女工の爲めにも色々な心配も注意して、普通の事業家と違つた人であるが、——他工場との競争上の事情からまだまだ其の人の希望する丈の設備が出来ないが——かゝる工場でさへ婦人が十三時間も押し通しに働き続けて居る、是れが米國其の他欧羅巴であつたならば余程問題になるであらふと思ふ勿論日本の工業に影響を及ぼす事だから一朝にして変更する事は出来ないが、労働婦人の保護は將來の國民に非常な関係があるといふ事は吾々が深く考へねばならぬ事である。未だ日本の婦人労働者の生活は僅か二三十年のもの

ので、其の弊害も充分世間に表れぬが、（實際弊害の事実はあるけれども）女工の年齢は大抵二十歳前後の人が多数で、早晚国民の母となる人であるから、此の人達を無暗に使役して心身を疲労せしめて置くと終には由々しき社会問題を起しはせぬかと思ふ。

其の他小学児童の健康の問題の如き、米国では学校看護婦と云ふものが特別にあり、且つ校医は春秋二期位でなく、常任で毎日学校に行き、衛生上の注意のみならず、病氣も診察し治療も施してやるやうになって居る。フィラデルフィアの如きは、市役所に歯や眼の治療室があつて小学校児童に対して貧困なるものには眼鏡を与へ歯も治療してやる、或は児童の口中衛生に関する会があるとか、父兄に衛生上種々の注意を促し又青年少年に性欲の衛生を教へねばならぬとか、市中に遊戯場を沢山作るとか、少年青年男女の爲めに健全なる娯楽場を設けると云ふやうな問題が非常に盛んで、實際の設備もどしどし出来て居るのである。

斯くの如く悲惨な状態に陥る人々の爲めに、吾々が為さねばならぬ救済事業は非常に沢山あるのである。然るに我が国では近来多少斯かる事に就て世人の注意を惹き起して来たが、未だなかなか満足する処の域に達して居ない。第一救済事業に就て要するものは人、次ぎに金であるが、先づ人に就て考へると日本では普通の教育事業には随分学識あり、徳望ある人が多く携はつて居るが、少しく特殊の事業に成ると容易に従事する人がない、婦人の内にも高等女学校や小学校の教師には喜んで成る人があつても、救済事業に身を投ずる人は極めて少ないと云つてもよい。之に反して欧米では学徳兼備の立派な人が沢山之に従事し、特に多数の婦人が神聖な事業として尽くして居るのである。

救済事業は決して男子ばかりでは出来ない、或種のものになると婦人でなければならぬ場合もある。實際吾々が一の救済事業を経営するとしても、非常に困難な事は適当な婦人の働人を得る事である。結婚を仕損つたとか、寡婦に成つたとかして途中から発心し救済事業に終世を託さうと云ふ如き出来心の人達では到底本当の事は出来ない。学校に居る時から、若くは卒業後直に斯かる事業に興味を有する人達が、献身的に従事されねば其の実を挙ぐる事は難しい。処で總べての婦人に一生涯を斯かる事業に投ぜよと云ふ事は甚だ困難である、併し今日学校を終つた所の婦人が婚期迄教育其の他種々の事業に携はる人の多いのを見ると、強ち斯かる方面に従事されぬ事はあるまいと思ふ。少しく普通教育に対する考へを救済事業の方面に傾注して、若し結婚する事があれば、それ迄の間でもよい、又直接事業に携はらぬにしても、兎に角斯かる事業に知識興味を持つ婦人が多く輩出すると云ふ事は、救済事業の進歩に非常な助けとなるのである。

私が直接子供を保護する救済所を見て感じた事は、斯くして保護された不幸の児童が一旦此の救済所を出たならば如何になるであらうか此の児童を受け入るべき適当な家庭を見出す

事が出来るであらうかといふ事である。如何に救済事業に従事する人達のみが熱心に其の事業に奮励しても、其の被収容者を数年の後社会に出した場合、其の社会が不幸児に対して何等の同情がなかつたならば、折角数ヶ年間教養された事も忽ちもとの通りになって何の意味も無くなつてしまふ。即ち救済事業に熱心な働人の必要となると共に、社会に多くのかかる事業に興味を持つ人が必要であるのである。それには男子よりも寧ろ婦人の同情者の多い事を希望する。今日日本の状態では種々の問題を多く男子が解決して居る傾向があるが、婦人達の成すべき性質のものは沢山ある。例へば私生児の問題の如き、之れに対する日本の法律は未だ充分ではなく、其の保護の如きも甚だ不完全である。里子にやられたる可憐児の保護或は世に所謂貰ひ子に対する悲惨な出来事等それ等を尋ねて行けばまだまだ沢山の問題があると思ふ。而してそれ等は婦人側からも進んで攻究し社会を廓清する運動を起こされたらよからうと思ふ婦人が政治上に関与する可否は兎も角も救済事業に関連する事に携はると云ふ事は社会の爲めに裨益する所が多い、のみならずそれに依つて婦人自身も自ら修むる点に於て得る所が多い即ち人生其の物を味ふことが出来るのである。（完）

『家庭週報』大正3年4月3日第265号

大正3年4月10日第266号

大正3年4月17日第267号

・生江孝之（大正8年本学講師、大正12年以後昭和18年退任まで本学教授）

慶応3年（1867年）仙台藩士生江元善氏の3子として生まれる。宮城中学時代に受洗、青山学院神学部を卒業、若き日に社会事業を志す。34才にて渡米、三年間留学、アメリカ、ボストン、イギリスを訪れ、社会事業視察の後帰国、明治42年より内務省嘱託、大正9年社会局創設に参画する。大正12年以後、戦時中にかけては、日本女子大学教授、日本大学、立正大学、青山学院、明治学院、関東学院、同志社大学講師などつとめる。又、済生会をはじめ、各種の社会事業団体の顧問、理事、評議員嘱託などをかねる。

自伝「わが90年の生涯」を口述でまとめあげ、数日後、1957年91才の生涯を終えられた。生江孝之の一生は、よく日本の社会事業史そのものだといわれている。

著 書

「社会事業綱領」昭和4年 巖松堂

「日本基督教社会事業史」昭和6年 教文館

「わが90年の生涯」昭和32年 民生文化教会

生江の本学科に対する貢献は、まことに大きく、筆舌につくしがたいが、その具体的な内容については、次号以下に紹介される。

3. 在学生、卒業生の活動

成瀬他、多くの教師の刺激のもとに、信念を形成し、社会的活動に関心をもった人々のなかには、自らの生涯のしごとを、社会事業に選んだものも、少なくなかった。そのなかでも、とくに代表的な人を1人選べば、それは、日本社会事業のまさに典型的先駆者である石井十次の岡山孤児院にとびこみ、その後、石井の思想をさらに発展してつくり、セツルメントの先駆としても評価されている石井記念愛染園附属愛染橋保育所の所長夫人であり協同者であり保育者であった⁽¹⁾富田栄子であろう。彼女の働きは、同時に、桜楓会員を刺激し、岡山支部の活動をはじめ、各地のそれが活発化するひとつのきっかけをつくっていったと思われる。その富田栄子の活動、所感については、つぎのような資料がのこされている。

細民窟の三年(1)(2)

富田 栄子

愛染園が開園の式を挙げた日に、私共の一家もここに居を移しましてから三ヶ年を経過いたしました。細民同化事業の一方面として私共は先づ彼等の子供たちから改めて導いて行かうと、所謂児童保護の立場から、托児所、幼稚園、小学校と各種の児童を取扱って居ります。只今では托児所に生後百日から満三歳迄の乳幼児が四十名、幼稚園の保育児が百十名、小学校には昼夜合せて百八十名程の生徒が参りて居ります。尚、その他嫁入前の娘達のため裁縫、家事を教へる家政塾に十八名の生徒がありますし、又日曜には、日曜学校を開いてこの附近の子供等を集めますが日曜毎に百五十名程集まって参ります。こんなわけで殆ど年中子供の出入しない日はまれで、ずい分と賑かな生活でございます。

子供を取扱って之に適當なる養育、教育を授けますには、先づ彼等をよく知ると云ふ事が大切であるのは勿論ですが、我々の事業に於てはそれ以上に彼等の家庭の境遇をも改善、

向上せしめたいとの希望が御座いますから、その家庭及び生活状態をくわしく知りたい為に園では子供の入園に際し成可く詳細に調査してこれを記入して居ります。それで私は近頃過去三年間に扱った子供の記録をしらべ之を数に現はして見ましたが、申しまでもなかりにも統計と云ふものを作り上げるのには、少くも千以上の数に當って見たものでなければ之を是非する事は出来ませんが、先づこれに依つても貧民の生活の如何様なものであるかは想像し得らるゝであらうと五百位の家庭を調査した結果をあげ尚ほ自分の感想をのべて見たいと存じます。

一 阪南貧民窟の由来

大阪市の四囲は貧民窟に包まれて居ると云つても決して過言ではなく、特にこの阪南の貧民窟は歴史の古き点より、面積の広く人口の多き点に於て府下凡ての貧民窟の魁をなして居ると云ひ得らるゝのであります。今までこそ電車の通じて居る大通は日本橋筋として可なり繁栄な町となつてゐますが、古来この辺一帯長町と呼ばれ貧民窟の別称かの如く考へられて来た所でありまして、歴史はなかなか古いのであります。即徳川氏の治世に至り天下泰平、自から交通の便起り、恰もこの辺が紀州方面との連絡要路に當り旅客の往来次第に多くなったので、元和元年時の町奉行久貝因幡守が初めて「はたごや」二十三軒を大阪に許した際この名呉町（長町は俗称）に十軒を置かせたのがそもその起原にて次いで寛文三年には地方より来阪せる出稼人、力役者のため木賃宿三十軒を許可し、更に天王寺下図麻堂附近は非人乞食又は西国順礼などの集合場所になってゐたため、これらの者を宿泊せしむる木賃宿二十棟も許可されるやうになつたので、次第に諸国よりの浪浪人、衣食の道を失つた者がここに集り遂に大阪に最大面積をもつ貧民窟となつてしまつたのであります。そしてかりに世をしのぶ者とか犯罪者が形跡をかくすのに都合のよい場所となり、こゝ十五六年前迄は警察力も及ばなかつた全く治外法権の範圍にあつたとの事でありまして。文化の頃時の文人上田秋成の「間廊談」には長町の有様が記されて御座います。

又かの浄瑠璃に現はれて居る摂州合邦ヶ辻の玉手御前や俊徳丸のいきさつもこの附近にあつた事で今も逢阪下に合邦ヶ辻、玉手水などと遺跡をとゞめて居るのであります。四十七士の義士の中にもこの長町にしゐて居た者もあつたさうで御座いまして、考へて見れば土地のもつ歴史もなかなか面白いものであります。更に太古は如何にと申しますと、この辺一帯に海岸でしかも風光明媚、大江の岸と称せられたと云ふことで、それが人皇二十二代雄略帝の御代、呉の国より織女、呉織、羅織の二女を献じました時ここに上陸して、その頃から名呉の浦と呼ばれこの町の旧名、名呉町もこれに起因すとあります。風光の美しかった証としてはかの萬葉集に柿本の丸が

住吉の名呉の浦辺に駒たてゝ

玉ひろひしてつゆ忘れじ

と詠じて居るのを見ても明なことで御座います。こんな土地が時代の変遷によって今では一大貧民窟となり遺名をつけた名呉橋の下には瓦斯のぶつぶつ吹き出す汚水が臭気をはなち、沿岸のあばら屋には同じ国民の末があらゆる文化をよそに日々のパンのためにあがいて居ると云ふ有様であります。

二 園児の家庭

さて當園に通って参ります子供は大部分こゝから二三丁以内に住って居るものでそれ以上離れた所から来る者は極少数であります。

そうして貧の程度は極貧と申すべきは少く先づ貧民中の中位にあると云つても差支ないのでそれは彼等がともかく定まった職業をもって居る為であると思はれます。ドン底生活にある多くの細民の内にも自ら階級があり、従つてその性情、傾向に於ても同一では、御座いません。之は一は貧の原因が一樣でないと云ふことに帰着するので、即生まれながらの貧民育ちと、家庭の主腦者の疾病、死亡等によりだんだん低下した者と、又事業上の失敗によりドン底に急変したものなどその原因により差別せらるゝのであります。試みに児童の本籍地を挙げて見ると幾分その消息をうかゞひ知る事が出来得ると思はれます。即ち五百六十七家族の内この貧民部内に籍を有する者二百二十二人にて全数の三割九分、他府県に在籍せる者百九十六人にて三割四分、その他は貧民窟ならざる市内及府下の在籍せる者にて百四十九人、二割七分と云ふ状態を示して居ります。且部内に在籍の者にて職業上及び子供の就学の為近年に転籍せる者が大部分あるのを見出し得るのであります。これによって見る時に他府県人はともかく、貧民窟以外に籍を有しながらこゝに移り住まねばならぬやうになった人は、例へ如何なる理由を以つても今の生活が、先の生活より高まったとは云ひ得られない事でありませう。地方より来た者の内には所謂食つめて逃れて来た者が多いことは勿論で御座いますが中には都会生活にあこがれて成功を夢見つゝ、多少の家産を金にかへて来り、経験なき営業に手もなく失敗して遂にドン底生活に入り込んだ者も、少くないであらうと察せらるゝのであります。子供は家庭の鏡と申す言葉が御座いますが、同じ貧しき人ながら私共の目にはこの辺の微妙なる消息を子供の服装、言語、動作によって知ることが出来るのであります。又境遇が人を作ると申しますが、貧の歴史の長短はたしかに彼等の性狀に現はれて居るのであります。一がいに貧民と云つてもその人から様々の相異があることを思はせられるのであります。他府県では何と云つても近い処が最多く、奈良の五十二を特に多しとし、兵庫の二十三、京都の十六、和歌山の十四など多い方にて、その他は大阪以東より以西の方が割合に多くその内にも又山陽、四国が主なるもので九州はわづか三、山陰も少くたゞ六のみにてその割合は北陸の方がかへって多く十九を數へ、東海には東京の六以外に四あるばかりで、東北地方は皆無の有様、思ふにこの方面の人々は東京さして集るのでありませう。

三 住 居

細民中の大部分は露路の棟割長屋に密集生活をして居りますが、その内にも極貧者の住む所とそうでない者とは区画を別にして居るかの如く見られ、この辺にても最も古くそして最も貧しい者の住む所としては、八十軒長屋、新八十軒、残飯裏、丸三裏、豚屋裏、カンテキ裏(コンロの事)などで九尺二間の一戸に二世帯、或は三世帯の生活を営み、例へば八十軒長屋では

戸数七二 人口五七三 世帯数一六三

と云ふ有様で平均一戸に二家族三分、八人の人間が住むわけ故、敷居一つが、家庭の境界線とも云はれませうし、中には少し広い室だと同室に赤の他人同士が二家庭住って居るところも御座いますからこうなればどこからどこ迄が家庭であるか区別がつかないやうになってしまうのであります。今子供の家で使つて居る畳数を挙げて見ますと

二畳 十三 三畳 二九 三畳半及四畳 一二 四畳半及五畳 六八 六畳より六畳半 一三五 七畳より八畳 一〇一 九畳以上十四畳迄 六五

一世帯平均六畳二分五厘を使用して居るので之にどれ程の人が住むかをしらべて見ますと次の様で

家族人員 二人 二四 三人 七〇 四人 一一六 五人 一〇八 六人 九一 七人 三六 八人 二三 九人 七 十人 五 十三人 一

一家族平均四人九分先づ五人となります。前記の畳の平均数と比較してつまり六畳半に五人の人が住む割合で一人に一枚二分の額分と申してさしつかへないであります。これは全体を平均したままで實際は二畳に親子三人とか六畳に家内九人と云ふ者もあつて、も豊かな者では七畳半に三人と云ふ程度の者が二三あるのであります。さてその家賃はと申しますと平均して畳一枚が八拾六錢四厘程となり六畳半が五円四拾錢位に当るのでありまして決して安いものでは御座いません。特に日家賃となるとまだ高くなって、二畳は一日七錢一ヶ月一畳が一円五錢となるのであります。間賃は最低五錢より四十五錢位まで、五錢の所などは皆二階の(二階と云ふより屋根裏と云ふのが本当で)、坐つて居れば頭が天井につかへないと云ふ程度のもので御座います。月家賃は一ヶ月三十錢から十四円位まで何故に三十錢位の安い家賃があるかと申しますと之は実相場でなく、つまりその家をかり受けた権利人が二階、奥の間、店の間と他人にかすことによって自分の負ふ家賃が減少して三十錢や五十錢ですむ様になるからであります。何か高いと云つてもこの辺の家賃程高いものではなく十五六戸に便所一ヶ所水道一本、三尺の小路へだてゝ向同士鼻をつき合せて建てられたあばら家に、風も通らねば雨ももるしかも足のひつかゝるやうな畳に戸障子の完全でないといふ有様で御座いますから実に高価であるといひ得られませう。彼等は一日の収入にて一日を過す者としてはこんな住ひをものばなければならぬのでありまして、之が木賃宿となる

とこれ以上高く汚く、ここに至れば不衛生、不潔などは論じて居られない全く別天地の観があります。大体細民住宅の不潔なる原因は彼等が生活に忙しく全部が夫婦共稼をなし掃除の暇がない事が一つで、又職業その者が不潔なためいくも掃除しても清れないにならないため、尚日光や風の通らぬしかも雑居生活にては清潔を保ち能はぬことなどからで即境遇の影響と云っても差支ない事と思はれます。このほか一寸小ざれに生活して居ると彼等の仲間から豊かなものと見られ金の無心を受けることも原因の一つにかぞへてもよいとの事で御座います。

『家庭週報』大正10年2月18日第601号

大正10年2月25日第602号

なお、明治末から大正初期にかけては、つぎのような在学生の社会事業施設の見学記および卒業生のアメリカにおける見学記などが、家庭週報に掲載されている。(89頁を参照)

以上の動向が、やがて結集して、桜楓会託児所創立へと展開していったと思う。

(1)岡田正章他「保育に生きた人々」(風媒社刊)

富田象吉の章参照

4. 桜楓会託児所創立と実践

日本でさいしょのモンテッソリー方式による⁽¹⁾保育所として、創立まもなくから注目されていた桜楓会託児所ができたのは、1913年7月(大正2年)であった。

それは、おそらく成瀬の大学拡張運動にもとづく指導と麻生正蔵のモンテッソリー女史の保育論に関する熱心な紹介またとくに成瀬をたすけた人々による指導とりわけ婦人が保育事業に適することを指摘した具体的な指導、およびそれに呼応してもりあがった卒業生の意欲などによるものである。

その成果は、同時に丸山千代、武市綾子という意欲的な人々によって、より存分に発揮されていた。丸山千代の業績は、すでに歴史的評価が定まっているが、⁽²⁾とくに千代は、ミス・フィリップスおよび前述の富田栄子の直接的な影響は強かった。富田栄子への書簡から、それをうかがい知ることができる。

創立当初の若々しい実践の姿を、つぎの資料は、物語っている。

富田栄子姉へ返し

(略)

栄子様此間は御手紙を有難う御座いました。丁度御手紙頂きました日の前夜に此所で保育所分科会が開かれました。其の時御園の御話を皆様に報告するやうにと府庁救済課からの御注文でしたので、昨年夏暫く御邪魔した時の思ひ出を御話しいたしました、建物設備その他いろいろの御計量や凡ての機関に就て確かに皆様の御参考になった事と存じますが、尚精神的空氣の漲って居る御園のそのまゝを描き言葉につきせ得ぬ事が残念で御座いました。殊に私は発表不手ですから。それから孤児院の子達のおやつ足らない事の心身の發育に影響するや否やに付て経営者はとかく冷淡なる事や保育所の乳児を日光に浴せしむる方法などについて語りあひ、此点に於ては福田会の行き届ける事、同情園の乳児取扱ひなども例に出ました。それから盛に問題になったのは乳児取扱保母の年齢や資格に付てでした。それには数人の子を育て上げた経験のある婆やがよいといふ説と未婚者で乳児發育に就ての智識あるものがよいといふ説と出ました。分科会としては中々賑やかな会合でした。しかしかゝる会合に於て又凡てこの時に於て私共は婦人としての長い間の情性の然らしむる所とは云へ余り意気地がないといふ事を益々感じるの御座います。沈黙従順の仮面を無意識に被って済して居るのはつまり自分の中心に理想が不明瞭であり、主張に忠実でないといふ事を証拠立てるやうなもので、私はつくづく反省をさせられます。先急には出来ぬ事としても習慣を破る苦痛に堪へなければならぬと思ひます。

私が御邪魔して居りました当時の赤ちゃん達は匍匐児室に、匍匐室のお子さんは歩行児室にとそれぞれ成長された事と存じます。此方では今年になってから歩行のまだ出来ない子や(父は病人)やうやう少し歩ける位の子が四五人進入しました。そして發育の不十分な血色の悪いこの子等をどうか活発に健康に育て度いものと楽しみと心配と半ばして居ります。此頃の朝々の寒さにも一番早く来る兄弟は、お母さんが工場に行くので十丁許り先きから六時過ぎには参りますが、七つと五つの其の子達はどうしても肥りません。そして昼寝が嫌ひなところへ夜も親の帰りが七時ですから睡眠不足になりはしないかと心配して居ります。夫婦揃って居てさへ中々困難なる今日此頃、母親は夫の死亡後日給四十三銭で、親子三人暮らして居ります。そして親類の補助も仰がずにその働くのを見るとほんとに私達迄緊張させられるやうな気がします。母を失った子は又一層可愛さうですね。此頃は重ね着の上から下まで不揃ひの汚れ切ったのをつけて参りますから中々大変です。一人が一日洗濯に終る事も珍らしくありません。此

種々の色紙を取り出して色の名を尋ねると赤位は知って居るが他の色は云ひあてない、六才になる児さへ知らぬ知らぬと云ふ、これは青これは黄これは何と教へてやると喜んで覚える、この子供等は「椅子」を知らない「腰掛」と云へば漸く解る位である（未完）

大正2年7月18日、第231号

二時のお八つの時又「帰るだよ」が出た、少し大きな方の子に糸巻を与へると案外興味を惹ひて皆赤白黒などの色糸を一枚の板に巻返しては遊んで居る。

昨日から何でも仲間はずれの好きな子があって人のする事はしない、そして遊戯と云ふ事にもあまり興味を持たない、実に色々の子供があるものだ、三つ子の魂百迄もの例へは此時代からちゃんと備はって居ると思った、送り迎へに来る内儀さん達を見れば其子の性質が分り、又子供達を見て居れば其親を知ると云ふ程正直に表はれるのである。

○お掃除

四時過ぎになるとお掃除が始まる、ちゃんと前掛をかけて喜んで掃いたり拭いたり、それから稍長い時間を髪をとかした爪を鉄んだりしてやっと六時迄の間の無聊をまぎらわしてやる。

やがて六時が来る一人で帰る児やら迎ひに伴れられて帰るものやら、混雑又一しきり。外に仕事を探して居る内儀さんはこんなことを云ふ「不景気で一向仕事がない仕方がないから八銭か十銭で内職して日に五六銭子供に使はれて居ましたのが、今度はお金は入らぬし仕事は出来るし」などしみじみ喜んでの言葉を残して去った。

三日目　いつも先がけのやすちゃん余程泣くのが止まって幾分陽気になったのが嬉しい、今日は別の子供も大分来た新入の心細いのだらう姉と弟（四歳に五歳）と二人寄っては泣きしゃくくのものもある、用意して置いた鉛筆を見つけて「お呉れよ　お呉れよ」と云ふ子もある、鄙びた言葉はなかなか改まらない。

○小供の描く絵

紙を揃えて与へると人まねして貰った子は何を画うの目的はないたゞ横線を引くばかり、何ですかときくと頭を振って知らぬと云ふ、山を画いたのが一人に家を画いたのが一人ある、外のは二三日前に画いた四角や円を画うと云ふ、それでは旗を画いて御覧なさいと云ふと四角の中に円を入れて少しそれらしいものが出来た、然しその外には何も書かないですぐ投出出して仕舞った、まだ画には興味を持って居らぬ其幼稚な程度にも驚かされた。

○イヤダイヤダ

九時お八つの前にお集りがある、今日のお話は西洋の児の愛らしい訓話的のものであった、そして非常に可愛らしい児童の絵を見せながら「皆さんもこの様にニコニコした可愛らしい子供になりたいでしやう」と云へばイヤダイヤダと云ふ、当がはづれて何故と問へばそんな赤い毛イヤダヨーとどうし

ても歓迎しない。面白いものと思った。四五人の子がオルガンの前で桃太郎さんの歌を唱ふので一緒になってうたひ、さて新しいのはと思つて居る内に一人去り二人去り、何時でも後まで残るは二人、此の子供は画にも唱歌にも一番長い間興味を持って居る、また上手でもある。

○待遠いお昼飯

お昼になると御昼飯よ御昼飯よとせがむのも定まって居る、我儘なのは障子の棧に上ると云ふ始末、お弁当は十一時、子供等は朝早いのでどうしてもはやく空腹になり易い、大人用の茶碗に山盛に盛るお菜は常に聞くよりは上々で、野菜の煮込、魚、豆などで麦飯を持って来るものは唯一人丈後は皆白飯である、内儀さんに会った時呉々も「弁当や着物には決心配して呉るな麦飯は薬である、私も黒い飯で」と云ひ聞かせても聞かないのである。

しんちゃんと云ふ五才になる姉さんは三才になる弟に御飯食べさせて自分は食わずに居る、その可愛らしさと云つたら又一しほである。

大正2年7月25日第232号

○漸く遊びに馴れる

午後は又思ひみの遊びが始まる、珍しく晴れたので皆外に出る、辺に流があるので少し油断が出来ぬ。子供は悉くハダシになる、常に内儀さん達は「ハダシになるでないよ」と教へるので、活発に遊ぶには下駄や高下駄では不可い子供の為めにはこの方が宜しいのですと云ふと始めて「さうですかね」と納得する。乱暴な子供だけに足も洗はずにはや上に上がらうとするので厳しく洗はせる、幼い三才四才の児はもう眠くなった床を並べて臥さすと三四時間は眠って居る。

○困った飴屋（略）

○野原の遊び

さあ野原へ遊びにと上の丘へ連れて出る足の達者でないものは御留守居してお八つの仕度して置く事にする。水引草や、花などを土産にして帰って一同でお八つを頂く、割合時間が長いので三時頃になると帰ると云ひ出すので御手玉を作へたり、唱歌を歌ったりして慰めてそしていつものやうに御掃除を済ませて帰らせる。

○仇返しの子さな

一体この辺の子供は仇打ちをよくする、隣りの児とか妹とか姉も弟の手助けして必度打ち返してやるなど云つて居るのを聞いて居ると、四才の児が六才の児に「どこ打たれたんだい、こゝかへ、うゝ、おれあきと打ちかへしてやるから」と慰めて居る。

一郎さんの母さんは或日「おかげ様で家に帰っても一向お金と云ひません、家に居れば食づめですから胃腸の丈夫な時は殆どなかった子ですが」とよろこび謝す。玉ちゃんの母さんも、お隣りのと仲睦まじくなりました、言葉もよくなりました、ほんとに有りがたう御座いますといふ、又軍司さんの母さんは此様な事をたった一銭でなんて長く続くものでせうか

とよこび感謝すると共に気がりの様を見せるのであった。

大正2年8月1日第233号

三四歳の子は丁度下の家の鶏と犬に興がって蹲踞んだり立ったり、又は普請中の長屋の縁に腰掛けたりして遊んで居る自分がそっと立って庭に行くと六七歳の子が四五人、先生飛行機々と云ふ、指さす方を見るとブランコが飛行機に化けて居る、高く吊り上げられた横木に、二つの車輪に板を渡したのを上手に中心とて乗せ上には雨傘を拡げてある。よく工風したものと感心した。

お客様との事に玄関に行つて見ると余り賤しからぬ二十四五歳の内儀さんが三歳位の子を背負つて疲れ切つたやうに汗を拭いて居る。御遠方からですかと聞くと牛込から来まして、段々話すの上

夫存命中は薬店を開いて居たが二年間脳病を患ひ、財は治療代に使ひ尽した揚句夫は死んでしまった、其の不幸後間もなく此の子が生れ今は兄の許に寄寓して居るが、姉が冷淡で子を他家へやり自分に奉公せよと云ふ、併し何と考へても此の子は離されないどんなに苦勞してもたとひ裏長屋生活に落ちても此の子は育てねばならぬ、けれども此の子があつては充分に働けないからと、種々に思ひ煩つて居た処が此の託児所の事を知らせて呉れた人があるので早速来たのである。

と話しながらも慎ましげなる物の言ひぶり、側に赤ちゃんの世話を居るおばさんが切りに同情の涙を注いで居る、色々と話して見ると愈々痛々しさが増して来て此の人の顔みを容れた。(つゞく)

寄贈品報告(三月)

一金竜円宛(二回) 無名氏

一単衣五、前掛六、襪掛、足袋、絵本数多

無名氏

一前掛十一、雑誌「子供の友」三冊

羽仁もと子氏

桜楓会託児所

大正3年4月3日第265号

千代さん達のおさは奇麗に古メリンスで結び上げられた、眼の手当、耳漏の膿も拭いた、腫物に薬もつけた、さあお山と云ふと先刻から待ち構へて居た子は一散にかけ出す、武ちゃんだけは例の通り左手を握って放さない、途中の悪戯が又始まった、下水に葱と足を入れたり、ポーフラをしゃくって口に入れようとしたりする、漸く上の草原へ上ると目にも見えぬ程の小さな花を集める、草をむしる、竹の新芽を見出す、これ共之れは何? と質問を出すものは滅多にない、蟻の穴を見出した子は小さな蟻が出入するのを見て喜んで居る、彼方の方では四才の子が大きな鎌きり虫を捕へて棒でつまいては其の動作を見守って居る、向ふの方に急勾配が上がったり下りたりして喜んで居るのは三才の子、斯うして小半時遊んだ、秀ちゃんはある顔をして来る、下痢でもするのではない

かと叔母さんに連れ帰らす、自分達もそろそろと下り始めると、三歳の子は下の菓子屋に好いもの見出したと云ふやうに這入り込む、やっとすかして、手を引いてくると、今度は四歳の子が他家の庭の草花をむしって居る、汗を流して詫びながら漸く連れ帰る、お手々洗はせ御八つを出す。母校の製菓部から送って戴いた甘いパンの屑を子供達は珍らしげにおいしいおいしいと頂く、甘いよ先生も食べて御覧と無理に口に入れてくれる、やがて誰からともなく桃太郎さんの唱歌が始まる、三歳の春ちゃん迄がお手々叩いて居ると、玄関でワーと泣き出す声に驚かされる、昨日新入の子が思ひ出し泣きをしたので、やっとすかして泣きやました、其の間他の子供達は新聞紙を四角に切つたので何か折って居る、鳩ポッポやオルガンが出来た、外へ出た子は仕切りに石炭殻を投げて喜んで居る、見張りをするとバケツや盃の中に石炭殻を入れて納豆納豆と云って歩く、中でも三歳の春ちゃんは一番上手だ、今年から学校に上つた正ちゃんは只今と這入って来る、兄ちゃん兄ちゃんとみんな大喜びで迎ひに出る、此子は登校前後の時間を託児所に暮すのである。お昼になると手を打って喜ぶ子の前に姉さん兄さん達は豆々しく、御飯の世話をしてくれる、あたい独りでとけたのと自慢しながら風呂敷とる子が段々多くなるのが楽しみである。

大正3年7月3日第277号

○大正3年7月10日第278号掲載の分は略

此四五日少し艶飾し出した啓さんの母さんが来る、此の頃はどうか豌豆や納豆売らないのかと聞くと何となく極り悪げに、エ、昨日はお洗濯しましたのと云ふ、少し変だとは思つたが、でも此の頃余り仕事が無かつたらうと毎日案じて居ましたし豌豆でも持って来なさたら子供のお八ツにと思つても少しも来なさらないし、お父さんでも居たら大丈夫だが、と云ふと、先生みんな云つてしまふはね、実は此の間中から云はう云はうと思つたが…と子供に乳を含ませながら、今度同居した家は女房さんが死んだので親父さんは年は少しふけて居るが、大変働き者だから一緒になったら好いだらうと云はれたので借金は五円程あるさうだが、私も連も一人では遣りきれないと思つて近所にも黙つて二三日前住み込んで来ましたと、云ふ先夫から籍は除たのであるかと聞くと、いくら籍這入って居てもなかに今度来たつて構ひつけやしないし、決して彼の人と一緒にしないと云ふ。先夫といふのは怠けた揚句に逃亡してしまつたのださうだ、兎に角それはいけな、罪を犯す事になるから横浜の国許へ頼んで籍を除いて貰つた方が好いでせう、と注意すると、さうかね、さうませう、では先生一寸今手すきなら一本手紙書いて下さいといふ、それでもあなたは本当に今度の家に嫁く気なのかと聞くと、エー人は極く好いし、働き者だから行きますわ、老母さんが一人あるがね其の大事にするってないよ、親孝行の評判だと嬉しげに話す、兎に角国許のお父さんへ相談の手紙なら書きませうと筆をとる。

内外の掃除も終へて親母さんは機嫌よく遣入ってくる、子供も皆帰って、啓さんの母さんも紙まで載いて済まなかった等礼云って、借金でも済んだら今少しサッパリした家へ越しますから其の時はお茶でも入れますよなど云って帰る、送り出して今日の仕事の終りをつけようとする、先生此の頃気分好いかねと訪れたのは先きに子供を託したいと申込んだ人であった、いろいろと世間話などする、立ん坊は近所に二人居るがね如何な日でも一円か五十銭の仕事はして来るよ、そして近所の固い者へ高い利息で金を貸して居る、宅でも借りて居るがね、立ん坊なんて馬鹿に出来ない、朝顔きに出る時にはボロボロで出て夜帰ってくると立派ななりに代へるし、お葬式等に行く時はお前さん、柔い紋付にキュッキュした袴つけて行くからね、そして其の内の一人は片手がなくて、独り暮して何でもして居る、お嫁さん世話してくれと頼まして居るが片輪に行く者はなかなかありませんやね、時に先生、今子供は沢山かね、今度は工場へ出る事にして直ぐ此の下へ引越して来ました、どうにもかうにも働かうと思つて、引越したのだから、何と云つても預かって下さいと頼む、今度は預りませうが一応目の検査の上と病院への書付を渡す、本当に助かりますと喜んで帰る。

今日の出席廿四人、五才以上九人、五才以下十五人

桜楓会托児所寄附

一 モンテッソリー教具一式「貳拾五円」広岡郁子氏

大正3年7月17日第279号

四畳半を本拠として狭い汚い露路を天下に生ひ立った此の子達は何を知らぬも無理はない、けれ共斯うして過して行く彼等の毎日が、やがて其の全生涯の運命を如何に左右するかといふ事を思ふと実に気の毒に堪へられない、せめて此の托児所に遣入って居る間でもと私に教育の必要を切に感じて居るが、なかなか力も手も及ばない、能力開発の方法を応用すべき研究に頭入るゝ時間もなく、雑務にのみ捉はれて規律的に教育を試みて見る事も出来ないのは甚だ遺憾である。斯ういふ経験をもつていつも胸はわだかまりに閉ざされながら一年を過して来た、翌二年となった今日子供の上にどれだけの進歩を見る事が出来たらふか。

この夏のはじめに六回卒業の武市姉は「夏休みの計画として托児所に働かせよう丁度新しい教育法の試みをして見るにも好い時機ですから」と云って来られた、自分は此の時夢ならずやと喜んだ、一時に千斤の重さを下した心地がして思はず有難う、嬉しいを繰り返した。

麻生学監や桜楓会本部の方々も熱心に準備下すつて七月中旬までに教室と遊戯室とを分けるために夜間用ふる板戸を以て境を拵へ、六畳の方には子供用の机と椅子が十五人分新しく造られて心地よく配列された、隣の三畳にはオルガンに教師用の椅子一脚置かれた、そしてモンテッソリー教具を広岡姉の寄附によって備へられた、之れにはフレーベルの積木も交ぜてある、斯ふした時の私の喜びは到底筆紙の尽す所でない、

子供達は又格別好奇の目を見はったそして一層の喜びは袴をつけた立派な先生を迎へた時である。(つづく)

大正3年9月18日第285号

水が出た出たの騒ぎが十四日の朝突然に起つた。川巾を広くされて以来一度も水の心配がなかった、此の辺の人達は昨夜からの大雨にも余り心配しなかったのが急にあはたゞしく形づけ始めた、見る見る一寸二寸三寸と濁水は低い地上を追ふて行く。托児所は一段高く川を隔てゝ居るので心配はなかった、けれども子供は四五人しか出て来ないので、外の子供の家が心配になった、托児所の叔母さんには氷川町の方へ行って貰つて私は御殿町の方へ兎に角様子を見に出かけた、そして子供や働かれぬ人達をこゝに来るはふと思った、坂の下はもう一面の水になってゐた一寸ためらつたが行かうと決心して、衣をかゝげたが足駄は水に没する、同時に感じた不潔の水、けれども汚い等云ふて居られぬ場合、まづ一番近い子供の家にたどりついた、内儀さん達は茫然外を見て居る、そしてあゝ段々水が浸つてくると吐息をして居る、自分の力ではもう行く事の出来ぬを知つたので私に子供の男親を頼んで見廻らせる事にした、ハイハイよう御座いますとも行って参りませうと棒を一本探りのために持って出て行つた、うちへ来る子供供りでなく誰でも困つて居る人は托児所へお出でなさいとふれて下さいとたのむで家へかべると、叔母さんはとても行かれない所をやつて行つて来ましたと帰つて来た、八百屋から薩摩芋を買はせて沢山蒸した、何とも仕方がないので川べりに立って見て居ると、水の中に家が立って、手に手に一本づゝの探り棒を持って西に東に道行する様の中々常事でない、二時間も立つたと思ふ頃やつと使ひはお腹まで水に浸つて帰つて来た、五十五番から五十番は大変でした、子供を早くよこせばよいのにと云ふと何しろ急に水が来たので方づけ方に気をとられたのです、今少し様子を見て今夜は御願ひいたしますと申しましたそして皆さんは大変に喜んで御礼を申しました等話して居ると先生さん来たよ、と小さな包みかゝへ子供を抱いた母さん達が避難して来た、此所なら安心だと吐息をついて居る、びしょぬれのはだしといふ有様、日頃皆様から頂いた着をとり出してすっかり着かへさせた。

大正3年9月25日第286号

夕方近くなつても水減くけはひがないので逃げて来る家族がだんだん多くなつた斯ふしては居られぬと男雇ひて米三円沢庵漬五十銭胡麻四合薪一束を求めさせた何しろ十日の氷川様の祭りに財布を空にしてしまつて翌日から降りこめられたのだからその窮状は察しられる、にぎり十個に沢庵添へて二人の男配り始めた、常ならば容易に廻り終るべきを腰のあたりまでの水を切つて行くのだから時間は意外にかゝつて後の半は高張を持ちながら行かせた。配り終つて今度はこゝへ来た人達が夕飯を出す、母子合せて二十人足らずであるが布団は子供用の分に去年羽仁様より頂いた大人用のもの取り出して尚不足の自分達のも分けやうと撰り出す時は自然に一番品

の悪いのからと手の行くので自分ながら心の足りぬのを恥かしく思った。

今夜は母の懷から放されたけいさん暫く母さん母さんと泣いたが、まもなくすやすやと眠った。外は水の音ゴゴゴとすさまじい、夜半も風烈しかったが幸夜明けまでには晴て水も全くひいた、けれども一面泥の世界で其の不潔さは筆紙に尽くされない、朝早くから見舞に出かけた私は、ともすると路上にころがる排泄物の上で倒れやうとする、高く戸板を蹴って其の上に疊重ね子供等は足をぶらさげたりして居る。ビスケット三斤買って此の子供達の土産にした、其の喜び真に嬉しげに親達は昨夜来の礼を懇に云ふを皆様のお心ですと云ひながら廻り終った。

大正3年10月16日第289号

(一) 朝の日記十時まで

(略) やがて学校に行く兄さん姉さん達はお早う、お早うと背から弟や妹を下してとんとんかけて帰る。一番遅い組のしづえちゃん為ちゃん次々に弁当下げてお八ッ代貯金代を腰の巾着に入れて、石段を上ってくると内からは飛んで出て、小さいお手々で鍵をあけてやる。元の久堅町に居た時は労働者の父親や母親に負はれ抱かれて七時前にはぞっくり来たものだが、此所へ引き移ってからは道が遠くなったので父母の見えるのは僅か三四人である。

トラホームが五人結膜炎が三人とお医者様の御指図通りに目を洗ふと、今度はおできの子三人に亜鉛化軟膏をぬってやる。他所の小父さんが来まじと私の袖をひくものがある。と見れば青くやつれた五十計りの人が尋ねて来た。段々身の上を聞いて見ると、「自分は行商人だが妻に先夫死亡され残ったのは男の子二人此の頃は大きい子の学校を休ませて四歳の子を守りさせてゐるが、教育丈は何としまして受けさせ度いと考へて居る内計らずも此方の事を聞いて嬉しさに早速乍ら参りました。」との事。尚色々和しい話も聞き此方の様子も話して兎に角一度子供を連れて来て下さいと云ふと大変な喜びで愈々御願ひ出来るとなったら御近所へ引越して参りませうとイソイソ帰って行く。(略)

大正5年1月1日第348号

○大正5年1月14日第349号に掲載の分は略

託児所の歳暮

(略)

年末の長屋はと見るに例の通り更に年の暮らしい感じもない、せつせと内に外に働いて居て井戸端会議も見当らない。年末の賞与の楽しみもなければ、遠方から歳暮の贈物に珍らしい小包の来る嬉しさもない。三十一日にやっと質屋から子供の着物を出すか古着屋から高いと知りつゝ子供の為に一着を買ふ位が関の山である。託児所へ来る子供の家は大方閉めてある。寒い朝な朝なおたのみ申ますと子供をおいて働き場に急ぐ親達を思ふと私はどんな事でもしてやりたい。託児所も

年内一っぱい開いて古着は今年は少し品が少ないが店を開いてやらう。クリスマスの頃には子供や学校に行った兄さん姉さん達も招いて面白い余興をして楽しませようなどゝいろんな事を思つて歩いてゐる内に病児のある家の前に来た。五年前に始めて来てその不潔に驚いた。

此の町が今日は何だかサバサバとして明るいやうに思はれる。之は二ヶ月の間水害地に住んだ為めであらうか。深川辺りのあのドブ色の天地、黒い水のたまって居る中に真黒な壘が浮いて居るあの惨状、いつでも水気のあるあの露地、それらを思ふと此の辺は有難い、汚くとも壘もあれば壁もある家根に穴もあいては居ない。子供の顔にも血の気がある。新しい札を押し込んで銀座の町を歩かなくとも三越の金モールの番頭さんに迎へられなくとも、恵まれて居るこの人達は平和な年末を送る事が出来る。一日の働きは一日の命。夜子供を膝にのせて新衣の出来ぬをわびなくともよい、唯強く正直に働いて居る処に幸福はある。同じ世の中に色々な年末があるものと感ぜつゝ託児所に帰る。

大正6年12月21日第477号

宮下町から (一)

秋雨そぼふる今日十月二十五日の朝、最早子供来る頃と門を開く此所託児所を見物席とすれば向ひの偉大なる森を背景にして道路は丁度花道である。朝な夕な疲れた顔に汚れた着物弁当片手に忙しく往き交ふ人々彼の人達は人生をどう見て居るのであらうか。やがてカチカチと息せき切って石段昇って来た母は親父親達お早ふ御座います、どうかお願い致します。此の教語に我が子の一日を託して働き場に急ぐ人はまことに健げなものである。かうした人々を冬の日も夏の日も送り迎ひするこゝ託児所の生れ出でゝから早や七星霜を経た。其間竹中かや子姉を始め飯田(旧本田)りえ子姉橋本(石黒)晴江姉内藤あや子姉等の美しき御手に格別の怪我もなく育くまれし児童は凡そ三五十名である。

今は在籍七十名毎日二歳の子二人を筆頭に三歳四歳と学齡迄の子等五六十人、酒井あき子姉は友となり姉となり師となつて一昨年の大多忙の頃より快活に活動して居られる今朝も最早出勤された。雨は中々止みさうもない。遠近の工場のボーは一入足音を急がせる。継母の苦勞をかけさせじと男ヤモメを通して居るブリキやの父を持った信ちゃんも去年は夫を失ひは夏長男をなくして一家四人の負担を双肩に担って居る母は養はるゝ恒ちゃんも、遂此間まで某と肩書きの門標打った家に育くまれし父の長の患の末は医業の道尽きて果ては暫く四畳半の長屋に僅かの家具を纏めて母は工場通ひとなった倫ちゃんも一通り揃った頃は鳩ぽっぽもえさを食べ羽を水に浸してどこへか飛び去った頃である。

もう遊戯室には大形の積木を持ち出して彼方にやぐら、此方にレールと三々五々組み立てに余念もない。壘のお部屋に

は机廻んで、マヽ事や絵雑誌見面白さうとのぞく間もあらせず先生先生と両手を引ばって無理に坐らせられる。寢室にはもう二歳の文ちゃんが臥て居る。今日は少し下痢の気味だとの事お昼は絶食とする。水遊びの好きな幸ちゃんいつの間にか泥まみれになって居る。先生もうほんとうに着換へがありませんよと小母さんが襦袢や単衣のえり出しに大苦心である。さうさう之も皆様に御願ひしてと云って居るところへ大きな包が届いた。兼ねて知らせがあった幕張りから数年続いて頂くお芋が届いたのだ。子供等は嬉しいなと非常の騒ぎ、子供達はかうして元気づいて育って行く。耳ダレ眼病オデキと酒井さんは入念に手当をされる片方では故と膏薬をはがし耳の綿をとってしまふ。

かうした目に見えぬ同じ努力を毎日払うのだ此の騒がしい雑音の中で、遊戯が始まるいつも此廊下にジョツボリとして居るドメちゃんは医師は之といふ病氣もないと云ふのに如何したものであらうか。

喜一郎さんには頭の格好の悪い兩耳の形の片輪なそじて意地悪な、昨日は便所の下駄を悉皆便つばに投げて仕舞った、今日も陰に廻って悪戯をして居る、祖父も父も大酒呑の為め糸を引いたものらしい。

大正 8 年 11 月 7 日 第 540 号

宮下町から (二)

多年の懸案であつた第二託児所も愈々日暮里に創設されて、近く開所の運びになった。物価騰貴の折から経営もだん容易でなくなってくるが、幸ひに桜楓会員其他の方々によって、暖き心に守り立てられてゆく児童は仕合せである。私達は唯心を純にし透明にして神の愛を取り次げばよいのである。労働問題の喧しき今日現在の子供達の家庭の職業を調べて見ると

父職業		母職業	
工夫	七	土方	八
運送業	三		
車夫	五		
職工	二〇	職工	四三
石工	一		
いはし屋	一		
大工	四		
植木職	二		
屑屋	二	屑屋	五
瓦職	一		
ブリキ屋	二		
車掌	一		
鍛冶屋	一		
事務員	二		
器械師	一		
兵器廠	五	兵器廠	二

となつてゐる。通所区域は此所が丁度巢鴨と小石川の間に位するので、両方半々位、小石川の方では白山御殿町(植物園前通りの裏)氷川下町、大塚仲町等、遠くは三の輪から通ってくるものもあり、児童数現在七十五名、毎日の出席者は不定だが、多い日は六十五人位、少い日即ち雨ふりや日曜は四十人位である。

保育料は一日二銭でそれがおやつかパンかお芋になる、お米の安い時はおぎにりも出せたが、此の頃はあまり出せない、それでも時々団子などを手製にして出す事もある。貯金は此の頃保育料の値上げと共に自由にしたが、それでも貯金するものが多くなって、中には一日五銭宛するものも数人ある。

時間は朝六時から夕六時過ぎまでであるが、時間短縮実行の早くなるやうに願つて居る。

入浴は一週に二度成るべく清潔を習慣づけ度いと思ふが中むつかしく、一通りならぬ努力を要する。子供の体格は割合に良好にて栄養不良の殆どないのは嬉しい事である。風邪、百日咳の流行の時季は一番困るが、目下でも百日咳で欠席の子が数名ある。之等の長休みは家計困難の家庭には随分困る事であるから、何とかして託児所の附近に病室用の家を借りて寝き病児は預るやうにしたいものだと思ふ。之等の社会には又肺結核のものが多し。其の伝染力は非常なもので、そのため幼児も風邪をひき易い。

会合としては母の会を月一度催す、これは親しく談合する事を目的として、其の間に含めて衛生教育に意を注ぐ事にしてある。公開娘会合は附近の人々と親しくなり幾分の明りとなりた希望から毎月一回開き、時には種々の余興等も入れて趣味の向上を心がけてゐる。コドモ会は此所の出身者を中心として、附屬の子供等のために月二回、お伽斬、又遠足等を試みる事もある。かうして少年少女倶楽部の芽生えになり彼等を導きたいと望んでゐる。

大正 8 年 11 月 14 日 第 541 号

(略)△降り続く先頃の雨には児童欠席数多く、巢鴨は四十余名、日暮里は二十余名の出席数でした△永らく御尽力下さった社会教育部係松川清子姉が此の度辞任なすつたので、その代りとして須田きよ子氏(十三回)就任される事になりました。経営困難なる託児所のために御骨折下すつた松川姉を満腔の感謝を以て御送りすると同時に、又斯道にかけて熱心な研究力を以ておいでになる須田氏を迎へた事を限りなく喜びます△七日午後一時から第二回託児所委員会を巢鴨の託児所に開きました。

神谷、田辺、萩野、一色の諸姉及び須田、丸山参会、此の度新に組織しようとする後援会につきて御相談をし後、遊戯室の床の改良につき又は母親の指導法に就き談しあい、散会しました。

当日は母校寮舎より数名の寮生手伝ひに來所されましたので、児童は大喜びでした△教済委員の責任区域に於ける報告とし

て九年度の不就学児の調べ、区役所に教護願ひいでも受け入れざりし数の調べ、三月中の教護紹介相談等、及び年度代りに当りて受持区域白山御殿町水川下町貸家合計一二〇〇余戸の昨年度の状況其の他を報告しました△七日夜府庁で救済委員会が開かれ種々の協議がありました。重要事項は児童保護委員に就て、都市計画の貧民窟を如何にすべきやに就て、及び継父母と継子の問題等でした△序故御願ひしますが託児所の共勞者に不足を感じて居ます、どうか此の精神的事業に興味を持たるゝ会員の統出されん事を切に望みます。

大正9年4月23日第561号

2) その他 『家庭週報』より

託児所の拡張

井上秀子

桜楓会で託児所を開設致しましたのは昨年の七月で御座いました、この開設当時まだかういふ事業が日本に珍らしがられただけ場所の選定にも家屋の借入にもなかなか手数のかゝった事で御座いましたいろいろと研究の結果、今の小石川久堅町水川下の労働者の一部落中に一長屋を借入れて桜楓会託児所と致しました、そうして直接この事業に当られたのはわが会員丸山千代子氏と他に助手一人とで御座います、斯様なわけで家も託児所の設備らしい事は出来ず人の手も足らぬ勝ちで只同情者の後援を力に一年余の計営をつゞけて来たのでありますが、実際の結果は日に日に要求を増すばかりで、一方には経験の乏しい事業の計営に力を割かれつゝ又一方には、明らかさまに申しますと其の経費の乏しいのに苦しみつゝもこの事業はどうしても拡張せねばならぬといふ感じを与へるゝばかりで御座います。そこで、今年三月の桜楓会総会の節にもこの託児所拡張の方法に就いて相談が持ち上がったのでありますが、新たに託児所を建てるとすれば最切り詰めた予算でも千五百円は見積らねばならなかったのであります、その費用をどこから出すかといふことに就いて、或は慈善興行をと迄も考へたのでありますが、間もなく思ひもうけぬ諒闇に際して、それ等のことは中止になりました。併し託児所の拡張に就いての方法は日々実行を迫られて来ますので、其の後翌々桜楓会幹部で相談の結果、一時桜楓会基本金中から借用してこの建築費に当てやうといふ事になりました、各支部へその相談をかけますと何れも賛成で早速その方針を以て建築に着手しやうと致して居りました所へ、曩きに、今回の慈善音楽会開催に就ての趣意書で発表致しましたやうに、代々木葬場殿の一部を桜楓会へ御下賜の恩命に接したのであります。こう申しては畏れ多い事で御座りますが、御下賜の建物は七十二坪の広さで価額に見積れば五千円以上のものであると申します、備附けの電燈、御廁などの行き届いた設備を拝見すると、これを直ちに託児所に戴くにはあまりに畏れ

多いといふやうな説も出たのでありますが、結極全部を矢張託児所として拝受することが御下賜の御主旨を奉戴することであるといふことに決定したので御座います、そこで託児所は予想以外の大拡張の動機を与へられたので御座います、曩きの基本金を借用してする建築沙汰は変更して、この記念の建物を改築する為めの今回の慈善音楽会開催といふことになったので御座います、改築設計の見積予算は二千円で御座います、幸に、今回の慈善音楽会はわが会員の熱心と、世の人人の同情を得て近くいよいよ開催の運びとなりましたこの同情心の結果がやがて恩賜の託児所を建設するのであると思ひますと、かゝる美しい働きに私共が朝夕を多忙に暮すといふことが誠に感謝に堪えぬ事で御座います。

さて、この新託児所を置くべき土地の撰定で御座いますが、実は矢張現在の桜楓会託児所の近傍に得たいと思ひまして、種々調査を重ねて数箇所の地主に交渉致して見ましたが、どうも希望通りの地所が得られません、私共の希望する所は今回の御下賜の建物は最意味ある記念館としたい、そして将来、必ず起つて来る要求に応じて各所に託児所の支部を設けねばならぬ時に、今回の建物を託児所本部にしたいといふ希望もありますし、殊にこの事業が何れも労働者中心に考へねばならぬことでありますから高燥な場所、広い空地などはなかなか見当らぬのであります。それに、何しろ東京といふ土地の高価な処でありますから、希望に近い土地を見出してそれを借入れるといふことはなかなか容易でないといふことを今回も幾々経験するので御座います、現に交渉のつく場所はこち

○桜楓会慈善音楽会

入場の注意

- ◎会場 上野公園東京音楽学校内で致します
 - ◎期日 十二月十二、十三の両日午後一時より
 - ◎服物 下足預りの用意はありますが成可く靴又は上草履の方が御便利です
 - ◎入場券は一枚金一円と二円との種別があります
 - ◎入場券は一人一枚当日限り通用の事
 - ◎四歳以下の御子様御同伴はお断り申します四歳以上の御子様は入場券を要します
 - ◎興行中止の場合の外に入場券は如何なる事情あるも買戻し致しません
 - ◎本紙購読者で入場券御入用の方は桜楓に御申込みになれば料金と引換へに御送り致します
 - ◎当音楽会には桜楓会員も入場券を要します
 - ◎音楽会当日は家庭週報臨時増刊音楽会号を発刊いたします
 - ◎其外託児所絵はがきを発売いたします
- らであり望ましくないといふやうなわけで今は新たに土地の撰定が急務になって居ります併し最早この場所さへ確定すればそれと同時に建築に就いての設計予算及び請負師の入札手続きも済んで居りますから、早速託児所拡張が実現せらるるので御座います、建物の拡大と共に、内部の改善も致さね

ばならぬことは勿論のことで御座いますから、それに就いて
当事者は益々多忙を極めることゝ思ひますが、前にも申しま
したやうに、多くの同情者を得て、そうして、美しい事業と
信じて致しますことに多忙であることは寧ろ最初からの希望
で御座いますから益々感謝して働くので御座います。

大正3年12月11日第297号

託児所だより

児童の父母の職業

△父の職業

職 業	日収	職 業	日収
電車車掌	六〇(銭)	鉄工	七五(銭)
郵便配達夫	五〇	鍛冶職工	八二
同	五五	運搬夫	五〇
鋳物職工	五五	自動車製作工	八〇
車夫	八〇	ボタン職工	五〇
理事	六〇	粉屋	五〇
電燈工夫	八〇	植木屋	七〇
織物職工	六〇	肥料取	六〇
建工職	六〇	土人形職工	七〇
同	五〇	時計商	一〇〇
大工	七〇	ブリキ屋	八〇
砲兵工廠職工	七〇	石炭屋	六〇
同	六五	屑屋	六〇
火薬庫工夫	六〇	洋服商	六〇
同	五五	受附	六〇
同	五〇	針工	五〇
人夫	五〇	医料製作夫	一三〇
同	八〇		

△母の職業

職 業	日収	職 業	日収
筆作り	一〇(銭)	仕立物	一八(銭)
ボタン作り	一〇	機械工場	二〇
コークス撰り分	二〇	ペン工場	二三
煙草入作り	一〇	ボタン工場	二〇
鋳物工場	三〇	土人形作り	三〇
牛乳瓶洗	三〇	紡績工場	三〇
同	四〇	金網作り	一五
屑屋	四〇	理髪師	五〇
金物工場	二〇	風船工場	二〇
コルク製造所	二〇		

大正7年1月11日第449号

おかみさん達の読物

(託児所の貸出図書)

丸山千代子

△一日中罵られながら

血の出るやうに働いて、油や垢で固くなったハッピの袖に両
手を突込みながら暗い道家路に急ぐ労働者の心の中はどんな
でせうか、生れ始めからかうした暗い中に育った者はいざ知
らず、のんびりした田舎に順境に生ひ立ったものが、ふと上
京してから不運に不運が重って、今はもう世の人にも振り向
いても見られぬ淋しい境涯に落ちて行く人々の心が日に
荒んで行き罪なき妻子を打擲しては悶えるのも強ちその人の
罪とばかりは申されませぬ。カバンを肩にかけて心は青春の
血に萌えつゝ学校に通った昔を夢に描きつゝ暗い四畳半に起
臥して、はてはやるせない心を紛らす術もがなと、酒活動、
賭博等、賤しき人々の群に投じて行く、かやうな夫を持って
不幸に泣く内儀さん達も数限りありません。実際に託児の父
母の

△身の上談など

を聞いて居りますと、せめて託児所からでも彼の人達を理解
し、慰めてとなつて行きたいといふ念が頻りに湧いて来るの
で御座います其の結果、先頃一寸本紙に申述べて置きまし
たが、或夫人が

△種子を下して

下すつて是等労働者のために夜間貸出図書を開始する事にい
たし、その他皆様からの御寄贈によって凡そ四百冊の書籍を
調へる事が出来ましたので、早速一間の押入を本棚に当て、
愈々一月一日の午後親子を集めて、これも或る方より御寄贈
の餅を以て小豆餅をふるまひ、今年の幸深かれと祝ひつゝ右
の事を話しました処、その喜びは実に何とものとへやうが御
座いまませんでした。

「之ではもう活動へ行く事もありせん。」

「宅の親爺は本といふと目がないんで御座いますよ。」

などゝ、

それから自由に選ばせて貸しましたが、一月中

△彼等が読んだもの

は、

父親が自ら選んだもの、

忍術の勇士、講談雑誌、日蓮、営業開始案内、西郷隆盛、明
治大皇御聖徳、犬公方、四十七士、世の中貧福論、武士道、
西郷南州言行録、鎌胆術、牛、何処へ行く、乱弾下、曾我兄
弟、独立自営、忠臣蔵、古戦場神を尋ね求むるの道、乃木大
将

母親の自ら選んだもの、

少年読本、一休逸話、講談、料理本、人と世間の表裏、小公
子、新国民の修養、婦人の心理、ナポレオン、名士の家庭、
お伽五人斬、女子教育(成瀬校長著)、大正新イソップ、林

子平、講談倶楽部、義士銘々伝、あゝ無情、ローマンス、婦人の友、演劇画報、児童の育成に就て、渡辺華山等で私が相談に与ったものは二三冊に過ぎませんでした。思ひがけなく割合に真面目なものの計り選びます。工場に働く芳ちゃんの母さんはとりわけ大喜びで、先生

△源氏物語や八犬伝など

何度読んでも面白う御座いますね母に叱かれながら行燈の影で八犬伝を三度繰り返した事もありますあの思い出の記はありませんでせうか私は大変あれが好きなのですが、など汚い内儀さん方から聞く事は一寸意外でした。元より目に一丁字も見えない親も沢山あります、其の辺も何とかして行きたいと思って居ります。

なほ暖になって本が沢山になりましたら、もっと広くかういふ人達のため夜間読書の便を開いて行度いと思ひますから、何卒御不用の本が御座いましたら何に限らず御寄贈戴き度う御座います大変有益に働くのですから、御はがき下されば此方から頂きに参ります。

託児所へ助成金下附

桜楓会託児所にては二月十一日の紀元節に当り東京府会議事堂に於て左の賞状に添へて金壹千貳百圓也下附されたり。

桜楓会託児所

救済ノ事ニ関シ從來尽力スル所尠カラズ今後尚一層淬励シテ其効果ヲ収メノコトヲ望ム依テ茲ニ助成金ヲ下附ス

二月十一日

内務大臣正三位勲一等男爵 後藤 新平

大正7年2月15日第405号

開所近き日暮里の

桜楓会第二託児所

丸山千代子

東京府下に細民窟の現在最も甚しいといはれてゐるのは、本所の横川町と深川の猿江裏町のトンネル長屋と日暮里元金杉の二疊三疊長屋であります。この辺の有様は一度行って御覧にならぬ方には逆も想像のつかぬ世界で、説明などは寧ろ駄足な事になります。

その内本所や深川の方は次第に救済が行き届きかけて参りましたが、日暮里の二千余戸の大部落は今日まで何の施設もなかったのであります。処が今度東京府慈善協会がそこに目をつけられまして、細民地区改善の計画を立てられ、千坪の地を購入して之れに五十一戸の長屋を建て、其中に託児所の設立の必要を認むるやうになったのであります。(略)

右設計に當って特に注意いたしました事は、第一託児所の経験によりまして、子供の監理に便なる事、而も家庭生活の暖みと規律的生活の両方を兼ねる事、日光と空気を各室に通じ、明る晴れやかに掃除に便利なるやうにする事、教育場と

しての気品あり、そして衛生清潔の習慣つけ易き様に、不浄になり勝ちのところに念を入れ洗手洗足の為にパイプを引いた事、建築費を節限して而も数年増築の必要な様に凡て兼用出来る様にし、硝子の破損を防ぐ為に腰板を高くしたる事等種々の要件を頭において、清水組指導の下に設計いたしました、出来上って見ると又多少の欠点は免れませんが、

場所は府下日暮里元金杉下り千五百九十二で、山の手ならば日暮里停車場の下の出口から凡そ二十分、市電ならば下谷金杉上町か三の輪車庫から十五分位、日暮里第三小学校の近くかんかん森の裏に当る三河島境界であります。前後左右小工場と小家屋のある中に蓮池が交って新開地の気分を思はせます。そこに千坪の中鍵形に府の貸長屋が建てられてあります。其中に一段高く二尺の地盛り(府にては土不足にも関わらず二尺を上げ然も最も良土を供給されました)をしました、東南の日当りよい庭を前にして六十三坪の建物がそれでありました。

先づ中心を占むる遊戯室は三間と五間にし天井は高く庭に面したる所には露台を設けました。技は下駄をよくはけぬ子等の日光をあびながら遊ぶところ、又晴れた日は食卓を開く事が出来るやうに、又大人の集会のある場合に場所の補充を兼ねるやうにもしてあります。鍵の手の廊下を隔てた部屋が二つ、其の一つは畳十畳敷、又一つは原造りのゴザ敷六畳、何れも寝室と食堂とを兼ね、雨天の時は保育室に当てゝあります。それで母の会の時などはこの部屋を通してしんみり使ふ事が出来る様にしました。此部屋には布団の人場をつけて窓を開けば直ぐ布団を干せる様にヤグラを組みました。一方には又子供の台所との境を両方から開閉されるやうに浅き半戸棚を設け、此台所には子供用食器を入置き、又六七歳の子等は弁当を自分で洗ふ様にし、おやつの手製も出来るやうにしました。反対の側即ち遊戯室の入口の方は子供入口と併べて三疊の部屋を作りました。之は臨時に嬰兒等を預る時、又は冬の朝特に早く来た子供等のため又夕刻残った子等のため火鉢を囲んでお伽噺位出来るやうに、又父母達と応接にも供する事の出来るやうになど、種々兼用の仕組みにいたしました。子供入口には洗面洗足に先生の手を煩さずとも自分で出来る様にパイプをつけました。下駄棚は紛失せぬ様に、又、規律正しく自他の区別をつけるために、一人一人に仕切りを入れて見ました。其の上の巾広い棚にねんねこや負紐等、朝夕親自身出し入れの出来る為めであります。便所の臭気不潔を防ぐ為めには外へタメを造ってタイルを貼りました。タイルは高価ですが他の仕事場の余り物を用ひましたから安く出来ました。その代り色が少し変です。それから保育室は四疊づつにして二間、三尺の押入をつけました。女中部屋、台所何れもきりつめ狭い所を利用しました。物置は本建物に押入のない代り、納戸向きにし一方小さく仕切って特別の小団保育又は訓戒用にも使ふつもり、此外事務兼応接室つゞいて客玄関等で総六十三坪余、費用は一坪百十五円で出来上がったのであります。

遊戲室にはみどり、保育室にはピンクにソーライトを塗る積りであります。之は乾燥の工合で来月末塗る事にしました。水は府の長屋の動力づきのタンクから供給し、外の設備としてはブランマ、木馬、砂場、藤棚、外のベンチ、コシカケ即ち野外保育場（屋内の建坪を儉約して）花園等、そして周囲はカナメ垣にし最初から植木を配して風致をそへ、かうして荒び行く細民の人達 — 大人も子供 — にも好感を与える事に苦心しました。

開所は来月初旬の見込で、娯保としては英文七回の市原やつ子姉が主任として御尽し下さる事となりました。

序に御願いたしたい事は布団、敷布、前掛、子供衣類等始めの事として特に準備を要します。女学校の方にも大分仕立をおねがひしてありますが、まだ品物がなかなか不足で御座いますから、皆さんの内に御不用の衣類、切類など御ありになれば桜楓会本部松川姉宛御寄贈を願ひたいと思ひます。

第二託児所をたづねて

その日の晩方に、深い秋の霧を見ましたが九時過ぎになっても、遂う遂う青い空は、見られませんでした。

多忙の時間を強いて割いて被下った丸山姉と、遠くに寒さうな木立をのぞんで、冷かな半野道を、たとりました。途中同日託児所の写真を、撮ることや、其他の用を兼ねて、日暮里の役署に立寄りましたら、署の田中氏は、こんなことを語って居られました。

『アノ辺の人達は多く屑屋や工夫で今日では働けばかなりの収入となるのですが、妙な慣習があって宵越の金を使はぬと云ふ、彼等の主義で収入の多くは、飲食や、賭博その他の悪い方面に費してしまうのが多いのです。又そのお内儀さんとは云ふと、勝手に、所謂近処隣の、相気相応めて、一日を徒費するといふ有様で、何故工場へでも出て少くも日に九十銭位の収入ある仕事につかないかと申しますと、彼等は叱度こんな手足まどひの子供があつては……と答へます。こんな風な不健全な生活状態故、大分役人も心痛して居りました処へ、今度桜楓会の託児所の開設を見る事は誠に喜ばしいことで、官省の方でも大分熱心をもって居られる様です』云々と（略）

大正8年10月31日 第539号



晩年の丸山千代

昭和 39 年 11 月 叙勲（勲五等宝冠章）の日に

功 績 調 書

氏名 ^{よりがな} 丸 山 千 代 生年月日 明治 20 年 5 月 28 日 年 令 77 才

本 籍 東京都世田谷区経堂 4 4 2 番地 職 業

現住所 東京都杉並区上高井戸 3 丁目 8 4 8 番地 浴風園内 事業従事年数 33 才

功 績 内 容 (要 旨)

丸山千代は、日本社会事業の成立当初より敗戦時の混乱期にいたるまでの長期間、終始先駆者として各種の事業に専心、それぞれの分野で指導的役割をはたしてきた。その間、その熱意と独創性にあふれた事業は、社会事業界のみならず、各界の人々、とくに婦人の注目するところとなり、社会事業が一般国民の間に理解されることを促進した。また、各事業の協働者のなかからは、現在、社会事業界の中心となっている幾多の指導者をうみだした。その具体的な内容は次のとおりである。

1. 桜楓会託児所主任としての功績

わが国の代表的女子大学である日本女子大学の同窓会、桜楓会託児所は、わが国最初のモンテッソーリー式保育法を導入した託児所であり、その科学的な保育方法を用いたのは、主任であった丸山千代であった。そのため、桜楓会託児所は、当時の託児所界の注目のまこととなり、指導的役割をはたした。また、桜楓会員一般に、その事業の必要であることを啓蒙し、託児所に関する一般の関心をたかめるのに貢献した。とくに、関東大震災時には、いち早く上野公園に臨時託児所をひらき、活動した。

2. 西窓学園主任としての功績

西窓学園は、日本の隣保事業史上に特記すべき有意義なセトルメントであった。当時のセトルメント活動が、ともすれば、外国の形式的模倣におわりがちであったなかで、学園は、ヒューマニズムにつらぬかれ、近隣の勤労者およびその子女の教育、相談事業に専心した。そのため、当時、協働者として活動した男・女学生のなかから、その後ながく社会事業に専心し、現在、第一線の指導者になっているものは少ない。

3. 聾啞者福祉事業における功績

戦前から戦中にかけて、当時はほとんど顧みられなかった聾啞事業に着手、その声望は全国におよび、各地から聾啞者がおとずれた。ことに、聾啞婦人の家や勤労聾啞青少年の夜学の開設は、この界においては誠にユニークな画期的な事業であり、不幸なる聾啞者に対する愛情と事業への熱意により、女史の苦闘は、その後戦争激化のため閉鎖にいたるまでつづいた。

(注) 叙勲の際、提供したもの

- (1) 大原社会問題研究所「社会事業年鑑」大正 12 年版参照。
- (2) 岡田正章他「保育に生きた人々」13 章および一番ヶ瀬康子他「日本の保育」など。

社会福祉学科 50 年史関係年譜 (1858 (安政5年)~1920 (大正9))

年 代	日 本 女 子 大 関 係	社 会 福 祉 一 般	一 般 事 項
1858 (安政5)	(6)創立者成瀬仁蔵, 山口県吉敷郡 吉敷村に生る。		
1859 (安政6)	12浮田和民, 熊本県に生る。		
1863 (文久3)	成瀬, 吉敷憲章館入学。		(7)禁門の変。(8)第一次長州征伐
1864 (元治元)	留岡幸助, 岡山県高梁町に生る。 (1)麻生正蔵, 大分県に生る。		
1865 (慶応元)	00高島平三郎, 東京本郷に生る。		
1867 (慶応3)	生江孝之, 仙台市に生る。		
1868 (明治元)	成瀬, 名井守介に従い漢学修業。 (→明治6)	(3)五榜の提示の定第一札に「寡 孤独廃疾のものを憫むべき事」を 令す。	(3)五箇条の誓文。
69		(2)大分県日田町日田養育館設立。 (9)東京府三田の教育所設立。	(1)薩長土肥四藩版籍奉還 ○各地で農民一揆
70		(9)脱籍無産者復籍規則制定。 11京都府窮民授産所。	(9)平民に氏の称を許す。 ○各地で農民一揆
71	ミス・フィリップス生る。 浮田, 熊本洋学札入学。	(6)行旅病人取扱方規則(→明治 32)。(6)棄児養育米給与方。	(7)廃藩置県。(8)穢多非人の称廃止。 12秩禄処分。
72		00東京府養育院設立。00人身売買 禁止及び廃娼令。	(8)山梨県農民一揆(小田切騒動)。 00奴婢娼妓の年季奉公を禁止。 学制頒布。
73	高島, 福山西町上小学校入学。	(3)三子出産の貧困者へ養育料給与 方規則。11内務省設置。	(1)徴兵令。(7)地租改正条例。
74	成瀬, 医師福田徳治に従い, 調剤 手となり, 物理学を学ぶ。	12恤教規則(→昭和4)	(1)民選議員設立建白。 (6)北海道屯田兵制度。

7 5	(5)成瀬，山口県教員養成所に第二期として入学。	(4)悪病流行の際貧困者救助方概則（→明治30）。(4)楽善会設立	(4)立憲政体漸立の詔。 (6)讒謗律・新聞紙条令。
7 6	(6)成瀬，山口県室津郡巡回訓導となり，室津上関の校長を兼ねる。浮田，同志社（哲学科）入学。	(8)内務省へ投産局設置。	(10)神風連の乱，秋月の乱，萩の乱 ○地租改正反対一揆
1 8 7 7 (明治10)	(1)～(3)成瀬，二島小学校訓導となる。沢山保羅によりキリスト教にふれ，夏出郷。(11)成瀬，大阪浪華教会において受洗。	(5)博愛社（20.5日本赤十字社と改称。	(2)西南戦争勃発。(10)コレラ大流行。
7 8	(1)梅花女学校開校され，成瀬，主任教師となる。 (4)高島，福山西町上小学校授業生の職に就任。		(7)高島炭抗騒動。
7 9	(12)成瀬，服部満寿枝と結婚。浮田，同志社卒業。	(6)福田会育児会設立。	
8 0	留岡，金森通倫，ケリーの説教を聞く。 (5)高田慎吾，熊本県八代町に生る。	(6)備荒儲蓄法。	(4)集会条例。(10)群馬県農民約3万入会地取上反対一揆。
8 1	(12)成瀬，『婦女子の職務』大阪福音社刊行。 (3)高島，広島県沼隈郡神村小学校に転勤，(9)同校須江分校に転勤。		(10)国会開設の詔勅。 (10)自由党結党。 ○紙幣整理。
8 2	(8)成瀬，梅花女学校を辞し，キリスト教伝導に従事。年末，郡山伝導所の専任となる。		(3)立憲改新党結成。 (12)福島事件。
8 3	(4)高島，広島県沼隈郡松永小学校に転勤。		(4)新聞紙条例改正（言論取締強化）
8 4	(1)成瀬，郡山教会を設立，専任牧師となる。 (9)高島，広島県沼隈郡金見小学校に転勤，同校校長となる。		(5)群馬事件。(9)加波山事件。 (10)秩父事件 ○不況甚し
8 5			(1)～(2)借金党・困民党等の暴動。
8 6	(9)成瀬，新潟教会に赴任。 (11)新潟女学校を設立，校長となる。浮田，同志社の教師となる。（→		

	明治30)		
	(6)高島、沼隈郡浜田(薬江村、金見の隣村)小学校訓導を兼務す。		
1887 (明治20)	(5)丸山千代、山形県米沢市に生る。 (3)高島、広島県師範学校に転動し同校附属小学校訓導兼助教諭司補となる。		02保安条例公布
88	留岡、同志社神学校卒業。 (9)高島、学習院備教師となる。		(6)高島炭坑事件
89		(1)貧民施療規則	(2)大日本帝国憲法
90	(11)成瀬、アメリカ留学を志し、新潟教会および新潟女学校を辞す。 この年北越学院(のちの北越学院)に教師として就任の麻生正蔵を知る。02渡米。 (9)高島、学習院本院助教授となる。	02政府、窮民救助法案議会上程否決さる。	(7)第1回総選挙。 (11)第1回帝国議会 ○恐慌
91	成瀬、フンドヴァー神学院に入学。社会学者タッカー教授の知遇を受く。 留岡、北海道空知集治監に教師として赴任。	02明治7年以後戦死セル軍人軍属ノ遺父母及祖父母扶助法(→大正12)	(5)大津事件 00濃尾地方に大地震
92	(6)成瀬、フンドヴァー神学校を去り、以降各地の学校を視察。(9)クラーク大学に移り、教育部研究科に籍をおき、女子教育を専攻す。 浮田、米国エール大学留学(→明治27)。		01東洋自由党結成。 02足尾銅山鉱毒問題。
93	成瀬、4月以降女子教育、社会事業などの視察見学に専念。 (9)『Modern Paul』(沢山保羅伝)をアメリカにて発刊。 02帰国の途につく。 (4)高瀬、黒田寿		
94	(1)成瀬、帰国。(3)梅花女学校校長になる。 留岡、職を辞し監獄研究などを志し渡米。	(1)大日本紡績株式会社工場附設託児所設立。	(3)日清戦争

9 5		(9)救世軍日本支部発足。	
9 6	<p>(2)成瀬、『女子教育』青木嵩山堂刊行。夏、梅花女学校校長を辞す。資金30万円の募金を予定し、大阪における女子大学設立計画を発表。内海忠勝、土倉庄三郎、広岡浅子等の援助を得、東京においては伊藤博文、西園寺公望、大隈重信、渋沢栄一、森村市左衛門、板垣退助等に援助を乞う。年末に設立趣意書発表。</p> <p>留岡、米田より帰国、『慈善問題』刊行。</p> <p>(9)高島、学習院を辞し、長野県師範学校備教師となる。</p>	<p>(4)移民保護法。</p> <p>(4)社会政策学会創立。</p>	<p>(6)三陸地方に大津波。</p> <p>(3)進歩党結成。</p>
1 8 9 7 (明治30)	<p>(3)東京星ヶ岡茶寮において女子大学第1回発起人会開催、帝国ホテルに貴賓両院議員を招待、第1回創立披露会を開催。</p> <p>(5)浮田、東京専門学校(早稲田大学の前身)教師となる。(→昭和16)</p>	<p>(2)大竹貫一ら衆議院に恤教法案及び教員法案提出。不成立。</p>	<p>(3)足尾銅山鉱毒被害民804名上京、請願運動開始</p>
9 8	<p>(4)高島、長野県師範学校を辞す。</p> <p>(9)成城学校教師の嘱託を受く。</p>	<p>(1)内務省に地方局新設。</p>	<p>(6)憲政党結成。 ○社会主義研究会おこる。</p>
9 9	<p>(2)高田、青山学院中等部卒業。</p> <p>(3)生江、青山学院神学部卒業。留岡、警察監獄学校教授に就任。</p> <p>(11)東京巣鴨に家庭学校設立。</p>	<p>(3)北海道旧土人保護法、</p> <p>(3)行旅病人及行旅死亡人取扱法</p> <p>(3)罹災救助金法(→昭和22)</p> <p>(3)水難救護法。</p>	<p>(7)改正条約の実施。 40普通選挙期成同盟会結成。</p> <p>(2)高等女学校令公布。</p> <p>(8)私立学校令公布。</p>
1 9 0 0	<p>(5)大阪の創立委員会で女子大学建設地を東京に決定、</p> <p>(6)三井家から東京目白台に敷地5520坪の寄附を受ける。生江、社会事業調査研究のため渡米。</p> <p>留岡、『獄制沿革史』刊行、ジョン・ハワード研究収録。</p>	<p>(3)感化法(→昭和8)、精神病患者監護法、未成年者喫煙禁止法。</p> <p>40娼妓取締規則(→昭和21)</p>	<p>(3)治安警察法。</p> <p>(9)立憲政友会結成。 ○この年恐慌。</p>
1	<p>(4)日本女子大学校開校式。第1回入学許可生徒510名。(家政学部84名、国文学部91名。英文学部10名、英文予備科37名、高等女学校全年288</p>	<p>(1)大草慧実、無料宿泊所設立。</p>	

	<p>名)校舎2棟, 寮舎3棟, 教師館2棟ほか。</p> <p>ミス・フィリップス来日。</p> <p>(1)成瀬, 日本女子大学校長となる。</p>		
2	<p>(4)ミス・フィリップス, 日本女子大学英文科教授として就任。(→1941)</p>		(1)日英同盟
3	<p>(4)桜楓会(卒業生の同窓会)発会。生江, 渡吹(主として英国社会事業視察)。留岡, 井上友一らの勧めにより報徳社視察, 全国慈善同盟会設立に協力。欧米視察に出発。</p> <p>(4)高島, 日本女子大学校教授を囑託せらる。</p>	(5)第1回救済事業大会大阪で開催。	<p>(11)平民社結成。</p> <p>(3)専門学校令公布</p>
4	<p>(1)私立日本女子大学校, 専門学校令により認可。3月1日から本校規則を専門学校令に準拠。</p> <p>(3)「日本女子大学校週報」(贈与版刷)発行。</p> <p>(4)本校第1回卒業式。卒業生120名。(4)桜楓会第1回総会。</p> <p>(6)「家庭週報」(隔週)発刊, 桜楓会発行。</p> <p>(12)教育学部設置発表。</p> <p>生江, 神戸市において出征軍人遺家族救護会を設立, 理事となる。</p> <p>留岡, 『戦時の慈善事業』刊行。</p> <p>(4)学監麻生, 欧米女子教育視察に出発。</p>		(2)日露戦争勃発。
5	<p>(5)桜楓会「花紅葉」第1号発行。</p>		(9)日露講和条約調印。
6	<p>(4)教育学部, 附属豊明小学校, 附属豊明幼稚園開校式。</p>	(4)廃兵院法。	<p>(2)日本社会党結成。</p> <p>(3)鉄道国有法。</p>
1907 (明治40)	<p>留岡, 『二宮尊徳と其風化』刊行</p>	(3)癩予防法。	(2)足尾銅山暴動。 ○この年恐慌。
8	<p>(5)『家庭週報』144-7号に, ジェーン・アダムスの事業紹介「米国婦人界に最も名あるミスアダムスの事業業」掲載さる。</p> <p>(9)桜楓会, 日本女子大学通信教育会設立。「女子大学講義」発行。</p>	<p>(9)内務省主催第1回感化救済事業講習会開催。</p> <p>(10)中央慈善協会設立。</p>	(6)赤旗事件おこる。

	高田，東京帝国大学法学部卒業。 (3)浮田，法学博士の学位受与。 (8)高島，内務省より感化教済事業講習会講師を囑託せらる。		
9	(1)高田，東京市養育院に就任。 (6)生江，内務省囑託となる。(→大正12) (2)浮田，月刊雑誌『太陽』の主幹となる。(→大正8) 丸山，日本女子大学卒業。逗子小学校へ就任。(7)病気のため退任。	(2)内務省，民間社会事業に国庫補助。	
10	(10)桜楓会，各寮舎女中のための夜学会を開く。 留岡，『社会と人権』『明暗創記』『現在基督教の不振』刊行。 (8)成瀬校長，女子教育反動時代に際し女子高等教育普及のため，沢沢栄一，森村市在衛門らと北越地方講演旅行。	(2)内務省感化教済事業奨励助成金交付。(12)内務省主催第1回感化院長協議会開催。	(5)大逆事件。 (8)韓国併合に関する日韓条約調印。
11	(4)創立10年記念式挙行	(3)工場法公布(施行大正5・8→昭和22)(5)恩賜財団済生会設立。 (11)内務省主催育児事業経営者協議会開催。	(2)普通選挙法案初めて衆議院通過。 (5)特別高等警察設置。(7)普選案貴族院で否決。 (12)東京市電ストライキ。
1912 (明治45) 大正元	(4)国文学部一時廃止(→大正5) (2)高田，社会事業視察研究のため渡米。 (4)高島，『家庭及家庭教育』刊行す。 (8)成瀬校長，欧米旅行出発(→大正2)		(8)友愛会創立。(12)第1次護憲運動はじまる。
13	(7)日本女子大学同窓の桜楓会託児所，東京，小石川区久堅町89番地氷川下細民部落に開設。(6)畳2間，3畳4畳各1間の長屋，15坪の運動場，当初の児童数20名)。 (7)丸山，桜楓会託児所主任保母となる。		(2)護憲運動大都市でおこる。
14	(7)桜楓会託児所では武市綾子(日本女子大学卒業生)の協力を得てモンテッソーリの教育法を取り入れた。(教室と遊戯室分離)	(2)災害地租免除法。 (6)第1回全国仏教徒社会事業大会開催。	(7)第一次世界大戦勃発。 ○経済界混乱。

	(1)成瀬校長、『新時代の教育』博文館刊行。 高田、内務省地方局囑託。(4)東洋大学講師となる。		
15	(5)桜楓会託児所、小石川より東京府下鴨下町1620に移転(巣鴨託児所)、保育児童数80名。 (4)高島、日本女子大学校退任。 (1)成瀬校長、勲五等瑞宝章を授与さる。	(7)内務省主催第1回感化救済事業 地方講習会を初めて大阪で開催。	(5)日華新条約。 ○成金続出。
16		(7)簡易生命保険法。	
17	(4)教育学部廃止、師範家政学部設置 10桜楓会、東京地方の暴風雨被害地へ臨時出張託児所設置。 ○臨時出張託児所の開所日数と児童数 第1出張託児所 在 原郡羽田町穴 守神社々務所内 開所日数 収容児童数 自 10月15日 最多日 79名 至 10月28日 最少日 23名 13日間 延人員 388名 第2出張託児所 南葛飾郡大島町 老丁日蓮護寺内 自 10月16日 最多日 132名 至 11月30日 最少日 32名 45日間 延人員 3,100名 第3出張託児所 深川区猿江 町妙寿寺内 自 10月19日 最多日 67名 至 11月11日 最少日 31名 22日間 延人員 915名 第4出張託児所 深川区石島町三 峰神社社務所内 自 10月19日 最多日 48名 至 11月30日 最少日 27名 延人員 1,569名 (1)成瀬校長、発病 留岡、東京府慈善協会設立に協力。	(7)軍事救護法(→昭和12)。 (8)内務省救護課新設。	○室蘭製鉄所ストライキ、他各地 でストライキ増大。

18	<p>(4)生江、日本女子大学教授に就任。</p> <p>(6)高田、石井記念愛染園社会事業職員養成所主任として赴任。</p> <p>丸山、内務省の囑託を受けて関西地方の救済事業を視察す。</p> <p>(9)成瀬、『女子教育改善意見』刊行。</p>	<p>(6)内務省、救済事業調査会設置。</p>	<p>(8)富山県に米騒動勃発、以後1道3府32県に波及。</p> <p>(11)第1次世界大戦終結。</p>
19	<p>(2)高田、大原社会問題研究所幹事となる。</p> <p>(3)成瀬校長永眠。</p> <p>(4)麻生、日本女子大学校長就任。</p>	<p>(2)大原社会問題研究所。</p> <p>(5)国立武蔵野学院内に感化救済事業職員養成所設立（後に社会事業職員養成所となる）。</p>	<p>(1)パリ講和会議開催。</p>
20	<p>(1)桜楓会、常設第2託児所を東京・日暮里元金杉下りに開設（日暮里託児所）。敷地213坪 建坪66坪。</p> <p>留岡、財団法人協調会評議員となる。</p> <p>丸山、日暮里託児所の主任保母も兼任。</p>	<p>(8)内務省救護課、社会局となる。</p>	

備 考

- (1) 明治前の年代は、人物にかんする記載事項がある年のみに限定した。明治以後は、毎年記載した。
- (2) 各事項の上についている算用数字は、月を示している。
- (3) 一般事項は、一般史上主要と思われるもの、とくに社会問題に関連深い事件に力点をおいて記載した。その年の注目すべき傾向を示したものには○をつけた。

〔附〕 掲載したもの以外のリスト(「家庭週報」より)

成瀬仁蔵をたずねた人々

号	年月日	題	名	筆者
39		児童の社会的事業		高島平三郎の談
415	T. 6. 5. 4	児童保護事業に於ける託児所の地位(上)		高田慎吾
416	T. 6. 5	(下)		
144	M. 41. 5. 16	米国婦人会に最も名あるミスアダムスの事業		社 会 部
145	M. 41. 5. 23	"		"
146	M. 41. 5. 30	"		"
147	M. 41. 6. 30	"		"

託児所日記

号	年月日	題	名	筆者
260	T. 3. 2. 27	託児所だより		記者
298	T. 3. 7. 10	託児所だより		丸山千代子
316	T. 4. 5. 7	託児所だより		桜楓会託児所
349	T. 5. 1. 14	託児所だより		丸山千代子
355	T. 5. 2. 25	託児所の一と夜感謝に充てる親の会		松川清子
449	T. 7. 1. 11	託児所だより 児童の父母の職業		丸山千代子
589	T. 9. 11. 19	桜楓会託児所 コドモ大会		丸山千代子
594	T. 9. 12. 24	" 一周年記念の日		ほ そ や
654	T. 11. 3. 10	託児所より		な し

その他の資料

号	年月日	題	名	筆 名
225	T. 2. 5. 13	盲学校の春季演奏会		欽 子
255	T. 3. 1. 23	東京育成園 (上)		光 子
256	T. 3. 1. 30	" (下)		光 子
35	M. 38. 6. 3	世のさまざま、其の一貧民窟の半日		な し
116	M. 40. 9. 21	岡山孤児院に清水氏を訪ふ		な し
120	M. 40. 11. 2	都下の慈善事業 其の一育成園		な し
123	M. 40. 11. 23	"		な し
214		薄幸児の将来		富 田 栄 子
215		"		"

そ の 他 の 資 料

号	年 月 日	題	名	筆 者
217		薄幸児の将来		富 田 栄 子
73	M. 39. 8. 18	岡山孤児院を訪ふ		桜 楓 会 会 員 某
75	M. 39. 9. 1	"		"
193	M. 45. 7. 26	婦人の職業		桜 楓 会 社 会 事 業 部
197		" (一)		"
198	T. 1. 10. 4	新しき婦人の職業 (二)		"
199	T. 1. 10. 18	" (三)		"
103		貧民教育と職業		社 会 部
522		社会事業の実際 女子大学生の見学 東京養育院を訪ふ		な し
523		" 巣鴨分院訪問(二)		"
313	T. 4. 4. 9	北米の理想郷		な し
524		社会事業の実際 家庭学校訪問(三)		な し
268	T. 3. 4. 24	模範託児所メーリー・フレーン		記 者
625	T. 10. 8. 12	社会事業学部開設の趣旨		麻 生 正 蔵
289	T. 3.	時局問題聴講記 (上)		浮 田 博 士
290		" (中)		"
291		" (下)		"
508	T. 6. 2. 21	四十年の旧友		浮 田 和 民
217		モンテッソーリー女史の教育法		桜 楓 会 教 育 研 究 員
218	T. 2. 4. 11	"		"
223		"		"
224	T. 2. 5. 23	"		"
207	T. 2. 1. 24	" 「児童の家」		麻 生 正 蔵
209	T. 2. 2. 7	"		"
210	T. 2. 2. 14	"		"
202	T. 1. 11. 29	婦人の天職		浮 田 和 民
203	M. 45. 6. 25	"		"
539	T. 8. 10. 31	幼児保育の経験から (四)		吉 賀 綾 子
415	T. 6. 5. 4	児童保護事業における託児所の地位 (上)		高 田 慎 吾
416	T. 6. 5	" (下)		"
39		児童の社会的事業		高 島 平 三 郎 談
578	T. 9. 9. 10	内外児童保護事業一斑 (一)		生 江 孝 之
579	T. 9. 9. 10	" (二)		"
580	T. 9. 9. 17	" (三)		"
581	T.	" (四)		"
582	T. 9. 10. 1	" (五)		"

そ の 他 の 資 料

号	年 月 日	題	名	筆 者
583	T. 9.10. 8	内外児童保護事業一斑 (六)		生 江 孝 之
584	T. 9.10.15	" (七)		"
226	T. 2. 6. 6	幼児保育所成る		な し
296	T. 3.12. 4	慈善音楽会 開催に附きて		弘 田 由 己 子
550	T. 9. 1.30	女の立場から社会改善へ		佐 久 千 代 子
624	T.10. 8. 5	児童問題に対する桜楓会各支部の計画		な し
298		桜楓会慈善音楽会趣意		"
600	T.10. 2. 4	託児所後援音楽会		な し
597	T.10. 1.14	桜楓会東京支部の託児所後援観劇会		"
538	T. 8.10.24	慈善音楽会趣意		"
561	T. 9. 4.23	京都支部主催の託児所後援音楽会		渡 辺 た み 子
477	T. 6.12.21	視察の途より		丸 山 千 代 子
496		慈善音楽会だより		な し
296	T. 3.12. 4	桜楓会託児所に於ける経験		武 市 綾 子
297	T. 3.12.11	" (一)		"
299	T. 3.12.18	" (二)		"
300	T. 4. 1. 1	" (三)		"
301	T. 4. 1.15	" (四)		"
302	T. 4. 1.22	" (五)		"
303	T. 4. 1.29	" (六)		"
438	T. 6.10.19	風水害罹災地へ臨時出張託児所設置		な し
442		深川二カ所託児所廻り		な し
440	T. 6.11. 2	大島託児所をたずねて		な し
439	T. 6.10.26	深川猿江町		な し
444		風水害罹災地臨時出張託児所寄附		な し
486	T. 7.10. 4	関西地方救済事業視察の途から		丸 山 千 代 子
492		第二常設託児所の設置に着手した桜楓会		な し
621	T.10.17.15	社会事業の一斑 (上)		武 田 真 量
485	T. 7. 9.27	巣鴨宮下の託児所を訪うて		た ま 子
321	T. 4. 6.11	畏き記念館 桜楓会託児所の落成式に臨みて		久 保 田 政 周
445	T. 6.12. 7	臨時出張託児所 - 先づ引上く		な し

あ　　と　　が　　き

すでにのべたとおり、本稿は、日本女子大学学内に所蔵されていた資料を集録したものであり、それにくわえて現在の歴史とくに社会福祉発達史研究で指摘されている点は、可能なかぎり「注」にふした。しかし、いまだ不十分であることはいうまでもない。したがって、読者の方々に是非お願いしたいことは、本稿で集録したもの以外に、またこの資料をきっかけに気づかれたことは、遠慮なく指摘し、御教示をお願いしたいということである。

次号は、大正7年社会事業講座（生江孝之担当）設置の頃から大正10年の社会事業学部創設迄のものを、集録したいと思う。とくに、第一回目の入学者であった方からのききとりなどを、可能なかぎり集録する予定である。この点についての御協力も、是非、お願いしたいと思う。

またこの仕事は、社会福祉学科研究室が中心となり、本学科卒業生およびその他の関係者の方々の御協力によって、10年計画で行なうものである。その発足に際して、選ばれた委員は、下記のものである。

研究室選出専門委員

一番ヶ瀬 康子（代表）（43回）

宇 都 栄 子（新制20回）

みどり会選出協力委員

遠 藤 節 子（46回）

田 中 美代子（新制1回）

島 田 広 子（新制6回）

なお、以上の委員以外に、それぞれの時期に応じて、特別委員の方を、お願いする予定である。